

令和元年上尾市教育委員会第1回臨時会 会議録

～ 1日目 ～

- 1 日 時** 令和元年8月7日（水曜日）
開会 午前9時00分
閉会 午前11時22分
- 2 場 所** 上尾市役所7階 大会議室
- 3 出席委員** 教育長 池野和己
教育長職務代理者 細野宏道
委員 中野住衣
委員 大塚崇行
委員 内田みどり
委員 小池智司
- 4 出席職員** 教育総務部長 小林克哉
学校教育部長 伊藤潔
学校教育部参事 兼 学校教育部次長 関孝夫
教育総務部次長 西嶋秋人
学校教育部副参事 兼 指導課長 兼 教育センター所長 太田光登
教育総務部 教育総務課長 森泉洋二
小学校教科用図書選定資料作成委員会会長 深澤孝忠
中学校教科用図書選定資料作成委員会会長 森田直樹
国語科専門部会長 升屋好永
社会科専門部会長 倉品幸二
理科専門部会長 増田司
生活科専門部会長 浅沼正義
音楽科専門部会長 石井都
図画工作科専門部会長 豊田好伸
家庭科専門部会長 野本智子
外国語科専門部会長 龍前進
道徳科専門部会長 小林斗志子
書記 教育総務課主幹 山内和徳
教育総務課副主幹 上山英樹
教育総務課主査 鳥丸美鈴
教育総務課主任 井上建一

5 傍聴人 10人

6 日程及び審議結果

日程第1 開会の宣告

日程第2 会議録署名委員の指名

日程第3 協議

令和2年度使用小学校教科用図書の採択について（途中まで）

7 会議録

日程第1 開会の宣告

(池野和己 教育長) それではただ今から、令和元年上尾市教育委員会第1回臨時会を開会いたします。本日、傍聴の申出はございますか。

(森泉洋二 教育総務課長) 10名の方から傍聴の申出がございます。教育長の許可をお願いいたします。

(池野和己 教育長) 傍聴を許可いたします。ご案内をお願いします。

~傍聴人入場~

(池野和己 教育長) 本臨時会は、本日7日と明日8日の2日間の日程で、令和2年度使用の小学校及び中学校の教科用図書の採択について、協議及び議案の審議を行います。最初に、「3 日程」の説明を申し上げます。本日7日は、「日程第3 協議」の途中まで、具体的には、小学校の国語、社会、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、外国語及び道徳の9教科について、各専門部会からの調査検討事項の説明及び質疑を、それぞれ教科ごとに行います。本日はここまでとして終了します。遅くとも午前中で終了としたいと考えて進めます。二日目8日は、協議を続行し、小学校の残り、算数及び保健について同様に進め、小学校のすべての教科について説明及び質疑を終了後、教科書選定の投票を行い、集計の後、結果を報告し、小学校の協議を終了します。続いて、中学校の協議に移ります。なお中学校は、道徳以外の教科が対象となります。具体的には、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語の順に、調査検討事項の説明を通して行い、質疑は一括して行います。説明及び質疑終了後、教科書選定の投票を行い、集計の後、結果を報告し、中学校の協議を終了致します。小学校、中学校とも協議を終了して議案の準備のために、暫時休憩を取り、その後、「日程第4 議案の審議」、「日程第5 閉会の宣告」と進めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。なお、本臨時会は、深澤 小学校教科用図書選定資料作成委員会会長、森田 中学校教科用図書選定資料作成委員会会長、教科用図書選定資料作成委員会専門部会の各部会長及び指導課指導主事に出席を求めていますので、申し添えます。それでは、日程に従いまして会議を進めたいと思います。

日程第2 会議録署名委員の指名

(池野和己 教育長) 「日程第2 本臨時会の会議録署名委員の指名」を行います。会議録署名委員は、内田委員をお願いいたします。

(内田みどり 委員) はい。よろしくお願い申し上げます。

日程第3 協議

(池野和己 教育長) 続いて、「日程第3 協議」に入ります。教育委員の皆様には、資料作成委員会作成の選定資料、調査研究資料、各小・中学校における調査研究資料、各小、中学校からの保護者のアンケート結果、教科書展示アンケートなど、既に配布させていただいておりますが、これらを基に事前に研究を進めていただいたことと存じます。本日これより、教科の専門部会ごとに調査検討事項

の説明をしていただき、慎重審議の上、採択を行いたいと考えますので、よろしく願い申し上げます。それでは、協議について説明をお願い致します。

(伊藤潔 学校教育部長) 小学校教科用図書の採択につきましては、文部科学省「小学校用教科書目録」の中から、教科用図書を選定し採択いただくことになっております。本日は、すでに配布させていただきました各資料から、資料作成委員会の研究結果を、御報告申し上げます。

(池野和己 教育長) それでは、「上尾市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する規則第5条第5項」の規定により、深澤 小学校教科用図書選定資料作成委員会会長より、令和2年度使用小学校教科用図書の採択について、調査検討事項の説明をお願いいたします。

(深澤孝忠 小学校教科用図書選定資料作成委員会会長) それでは、ただ今から、小学校教科用図書の採択に係る選定資料についてご説明いたします。資料作成の過程でございますが、校長1名、専門的知識を有する教員2名から5名により専門部会を組織し、すべての教科書発行者の教科用図書について調査研究し、その結果を資料作成委員会において報告していただきました。その報告をもとに、学校の調査研究結果、教科用図書展示会におけるアンケートも参考にしながら作成したものが、選定資料でございます。

(池野和己 教育長) それでは、国語より順に、各専門部会長の方から調査検討事項の説明をお願いしたいと思います。

(升屋好永 国語科専門部会長) 国語につきましては、4者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、新学習指導要領で求められる、主体的・対話的で深い学びの授業を創造するために、一年間の学習を見通したうえで、各学年、2年生から6年生の学習で楽しみなこと、頑張ることができるようになりたいことを、友達と伝え合う学習として位置付けています。また、第2から6学年を通して、学年の最初に、友達との対話を通じて互いの考えを広げたり深めたりする学習を位置付けています。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の単元においては、「言葉の力」を明示し、「何ができるようになるか」を、明確にして言葉による学習を進め、確実に身に付けることができるようになっていきます。学校図書は、主体的・対話的で深い学びの授業を創造するために、最初にその学年で付けたい力を一覧で示すなど、学習過程や単元全体の構造化が図られ、児童自らが学びを進めていけるようになっております。また、「話す・聞く」活動を系統的に位置づけ、「伝え合う力」が身に付くようになっております。学年末には、1年間の学習をふり返り、気付いたことを表現する活動を設け、今後の学びへの意欲付けができるようになっております。友だちのアイデアやアドバイスをもとに、新たな価値を創造したり、考えを再構成したりできるように、さまざまな過程で話し合いの場を設定しています。教育出版は、主体的・対話的で深い学びの授業を創造するために、各領域、「つかむ・取り組む・話し合う・ふりかえる」など4から5のステップ構造で学習の手引きが示され、見通しをもつことや活発な言語活動の展開につながっています。また、対話例が多数あり、児童が自分の考えを持ちやすくなっています。手引きの最後に「言葉」の問いやカテゴリ別の言葉が示され、教材の読みをさらに深めたり、語彙の増加や定着を図ったりすることができます。教科書冒頭では、「〇年生で学ぶこと」を設け、領域別につけたい力が見通せるようになっていきます。光村図書は、主体的・対話的で深い学びの授業を創造するために、学習に臨む際に全体の見通しや振り返りの場面を設定しています。また、グループなどで対話や助言し合う場面を設定するなど

の工夫が見られます。単元の振り返りでは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学ぶ態度」の3観点で振り返ることができるようになっていきます。2年生以上の各学年上下巻冒頭で、領域別につけたい力を示し、系統的・段階的に学習できるようになっています。「いかそう」では、学んだ知識を他の学習や日常生活で活用できる場を例示しています。以上で、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございました。「国語」について説明をしていただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(大塚崇行 委員) 今回の学習指導要領の改訂で重要視しておりますアクティブラーニングに関して、主体的対話的で、深い学びができるようにということで、各者、国語でも導入部分で、いろんな形で表現していると思いました。そこで上尾市の教育委員会として、アクティブラーニングに関して、教員や生徒の方々に、指導しているとか、何か働きかけをしている、アクティブラーニングが活発に出来るようにということで、そのようなことがあれば、伺わせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(池野和己 教育長) それは教育委員会への質問ということでよろしいでしょうか。それでは太田指導課長お願いします。

(太田光登 指導課長) 学校訪問等で、アクティブラーニング、主体的・対話的で深い学びについては、学習課題の明確な提示、それから見通しをもって学習を進めること、更に振り返りで、どのような学習ができたか、そういった方向性と、まとめ、振り返り、授業の展開について、重々指導しております。以上です。

(大塚崇行 委員) 分かりました。ありがとうございました。

(内田みどり 委員) 国語の教科書で、今まで使っていた教科書はとても見易くて、慣れている部分もあったので、とても読み易かったのですが、その反面、保護者から見ると、対話の数ですとか、例の数ですとか、そういったものを子供達が考えるときに、ある程度、例がある方が見易いかなと思ったところもありました。その中で、学校側として、国語の教え易さ、どんな教科書が教え易いのかというのが、何か明確なものがあれば教えていただければなと思います。

(升屋好永 国語科専門部会長) ご質問の回答になるか分かりませんが、どの教科書も、子供達が学び方、何を学ぶかということが、非常に明確に提示されたというところが、今回の教科書の一つの特徴であると捉えています。学び方ということが明確になった。

(内田みどり 委員) そういった場合に、ある程度例が上がっていると、親としては凄く見やすかったんですね。これを参考にしようですとか、例えば漢字ノートの作り方が載っている教科書もあったんですが、それを見ることによって、子供はこれを参考にして発展させようという気持ちになるのかなと私は感じたんです。ただ、それを先生方の方で見た場合に、ある程度ヒントを出し過ぎになってしまうと考えるのか、それとも先生方の指導的には、そうではなくてももう少し子供達に、一から考えさせたほうが良いのかなと、そういったところはどうかかなと感じたものですから、そういったのはどうでしょうか。

(升屋好永 国語科専門部会長) 提示し過ぎてしまうということに対する懸念ということでしょうか。

(内田みどり 委員) 親としては提示した方が、子供が家に帰ってきて、これを参考にしようねとか、これから発展させようねという感じは受けたんです。今までの教科書ですと、ある程度ヒントは出ているんですけれども、そこからは自分で考えなさいみたいところが多かったような感じなんですけれども、先生方としてはどちらの方がやり易いのかなと。

(升屋好永 国語科専門部会長) これからの学習を進める中で、先ほど課長も言われたように、見通しをしっかりと持って、子供達が学習に臨む、そういう意味では、例示を明確にしたほうが、よろしいと思います。

(内田みどり 委員) ありがとうございました。

(細野宏道 教育長職務代理者) 説明をありがとうございました。光村図書さんですが、3観点が良いということで、研究資料の方に3観点で振り返ることができるということが記載されていますけれども、特にどういう点が良くて、この3観点、いわゆる、「知識・技能」、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」というふうに判断されたのを教えてください。

(升屋好永 国語科専門部会長) 今度の学習指導要領での評価が全ての教科において、「知識・技能」、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」が示されました。そういう意味では評価するうえで、3観点が明確に示されたということは、非常に評価の面でも、教師としてはやり易いと捉えております。

(細野宏道 教育長職務代理者) ありがとうございました。

(中野住衣 委員) 国語というのは、全ての教科の基本だと考えています。そうした時に、最近子供達のノートを見ると、ひらがなですとか漢字ですとか、正確に丁寧に文章に書いている状況が、昔に比べて少し定着できていないように感じる部分があるのですが、その辺については、国語、特に低学年は、国語の教科書を中心に他教科との関連を図りながら進められているのでしょうか、実態についてどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。お聞きしたいと思います。

(太田光登 指導課長) 中野委員さんがおっしゃる通り、私も子供達のノートを見ますと、やはり、誤字脱字というのは非常に気になっております。これは本当に若手の人材育成にも関わる内容で、やはり教員の個別指導の課題、そういったところが感じられますので、やはり学校訪問等を通して、各学校を回るときに、ひとりひとりを大切に作る指導、ひいては、子供達が学習課題で文章を書いたときに、それがきちんと書けているかどうか、見回り、個別指導をしっかりと行うように、指導しているところがあります。以上です。

(中野住衣 委員) それぞれ各者、教材を見させていただいたんですけれども、本当に低学年の頃は、「おおきなかぶ」ですとか「くじらぐも」ですとか、子供達が暗記するぐらいに、教科書の内容を覚えて、それが一生の宝になっていると思うんですね。そういったときに扱っている教材について、部

会の方でどのようなお話が出たのかお聞きしたいと思います。

(升屋好永 国語科専門部会長) 本当に、長年教科書として、扱われていた物語文も、今も残っていますし、また新たに生まれた、新しく載ってきた物語文もあります。やはり長年教科書として扱われた物語については、ある学年の物語がどの教科書にも掲載されているというのがありました。それはそれだけ、大切にされてきたものだと思いますし、教科書によって物語文の扱いは、ほぼほぼ違うんですが、昔から、あるものについては、どちらでも扱っているという点では、これからもそういった物語文の、良さというものを、大切にしていかなければならないと捉えております。以上です。

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。それではありがとうございました。以上で「国語」の質疑を終了いたします。続いて「書写」の説明をお願いします。

(升屋好永 国語科専門部会長) 書写につきましては、5者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、ねらいが焦点化できるよう「見つけよう 確かめよう 生かそう」を設けて主体的に学習を進めることができます。教科書の横幅が大きいので、情報量も多く、色使いやイラストが適量であり、見やすいです。筆や鉛筆の向きを示す補助線やキャラクターに表情をつけ、力の入れ方や向き等を示すよう工夫されています。姿勢や用具の持ち方・扱い方が、すぐに見られるように各学年巻頭の折り込みページに写真と解説をつけて掲載されています。学校図書は、「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」の学習の流れが一貫していて、児童が主体的に学習に取り組みやすくなっています。硬筆に生かす学習では、教科書にそのまま書き込めるようになっており、教科書一つで完結できます。キャラクターを使い、対話して考えることやポイントを伝えるよう工夫されています。姿勢や用具の持ち方・扱い方が、すぐに見られるように各学年巻頭の折り込みページに写真と解説をつけて掲載されています。教育出版は、「考えよう、ここが大切、生かそう」という学習の流れに沿って、主体的に学習を進めることができます。毛筆を扱った教材では、硬筆を使った試し書きとまとめ書きがセットになっていて見比べられて、判断力を育成するのに適しています。キャラクターに吹き出しをつけることによって、大切なポイントが分かります。姿勢や用具の持ち方・扱い方が、いつでも見られるように、各学年巻頭に写真と解説をつけて掲載されています。光村図書は、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の学習過程が分かりやすく、見通しをもって主体的に学べるよう工夫されています。複数の色使いにより筆使いが理解しやすく、そのため、児童が主体的に活動しやすくなっております。キャラクターに動きをつけ、書くときのイメージをもたせる工夫がされています。姿勢や用具の持ち方・扱い方が、各学年の巻頭に写真と言葉で掲載されています。日本文教出版は、「考える 確かめる 生かす」の学習の進め方が示され、主体的に学べるようになっていきます。毛筆教材では、硬筆を使った試し書きとまとめ書きがセットになっているので、見比べることができます。キャラクターの言葉にはヒントが含まれ、学びが深まるよう工夫されています。姿勢や用具の持ち方・扱い方が、いつでも見られるように各学年巻頭に写真と解説をつけて掲載されています。以上で、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございました。「書写」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(大塚崇行 委員) これも広い意味での質問となってしまうかもしれませんが、各教科書にDマークとありますか、QRコードが出てきております。これの使用については、あくまで家庭で使用すること

を想定していることなのか、若しくは、教室のモニターに映して使用することを考えているのかお聞かせ願えればと思います。

（升屋好永 国語科専門部会長）どの教科書会社にも、今回2次元コードが付けられて、非常に今風の学習が進められるようになってきています。そういった中で、学校でこの2次元コードを活用するのは今の段階ではやや難しいと思います。家庭において活用を促すということが現状ではあるのかなと思います。

（大塚崇行 委員）私もいろいろ見ていて、書写ですと、動画が入っていたりだとか、教科によってはクイズ形式のものがあったり、学習に興味を持たせるという部分では良いのかなという部分もあるのですが、ただ、家でスマホやタブレットを見過ぎるということもあるので、これの使用に関しては適度な使用を促していかないといけないのかなと思いました。以上です。

（中野住衣 委員）先程の文字の書き方についてということで、国語と書写の指導を中心に身に付けていくものだと思いますが、一つ書写の教科書を見ていて気付いたことですが、ある1者が鉛筆の持ち方について1年生の指導から丁寧に書いてありました。その時に、鉛筆を立てるということは各者出ているのですが、今、子供達の文字の書き方を見てると鉛筆が立ちすぎているか、または、反対側に倒れていたりする子がいるんですね。そして、親指が出ている。各者、正しい持ち方について1年生の段階で出ているのですが、1者だけ、まっすぐ立てて少し倒しなさいと書いてあったんです。そうするとここ（親指と人差し指の間）が空くんですね。鉛筆の正しい持ち方を徹底していくことは大事であると、その教科書会社の書いてある内容を見て改めて思いました。それから、随分丁寧に他教科との関連を図っている教科書がありました。1年生の書写の教科書に、横書きのノートの書き方がきちんとありました。それは、1年生の生活科の中で生活の観察記録をとる時に出てきます。そして算数、算数は横書きですよ。算数のノートの書き方、数字の書き方もしっかりとめて書く等書いてあり、そういうことを低学年から書写の授業を核に丁寧に指導をしていくことが大事であると思いました。ぜひその辺を考慮していただきたいと思いました。意見です。

（細野宏道 教育長職務代理者）先程、内田委員の質問で、もう少し意見を述べさせていただきたいと思いますが、この書写というものに関してなんですが、大変、日本の意義、伝統だと思っています。筆と墨汁だけあって、外国に行って何もなくて文字を書くとヒーローになるんです。日本なんです。僕たちが習ったときには、教科書にここに力を入れなさいというような記載しかありませんが、今はDマークとかあって、動画でそれを実際に見られる訳です。それは子供達にとって大変分かり易いと思いますので、ですから全てのものを使うのではなくて、上尾はICTの設備が整備されていますので、使えるものは使うということで子供達には興味を持たせて、日本の大事な文化として、是非こういったものを使ってこの書写というものを教えられるものを作っていきたいなと、そういうものを僕たちも選びたいなと思います。以上です。

（中野住衣 委員）質問です。各者見たときに、書道の時に用具の置き方というのが出ているんですけども、その時に1者だけ、筆の置き場所が硯の左だったんですね。他のところは全部硯の右側、これについては話題に出ましたでしょうか。

（升屋好永 国語科専門部会長）それは話題に出ませんでした。申し訳ございません。確かにその通り

でした。

(中野住衣 委員) 私が考えたのは、筆を持って使い始めると、書きながら墨を付けるので、左側でなく右にあってよいのかなと考えました。また、左側か右側のどちらかに鉛筆が置いてあるのですが、使う時にどちら側にあるのがよいかということで何か意味があるのかなと思い、気になりましたのでお伺いいたしました。

(升屋好永 国語科専門部会長) 先程、大塚委員さんと細野委員さんのご意見の中で、2次元コードの使い方については、これから検討の余地があるということでお答えしましたが、ただ、子供達全体に、示すことは、大型モニターを通して積極的に、これから活用できていくようになってくると思いますので、それについて付け足しさせていただきます。

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。それではありがとうございました。以上で「書写」に関する質疑を終了いたします。続いて「社会」の説明をお願いします。

(倉品幸二 社会科専門部会長) 社会科教科書につきましては、3者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、問題解決的な学習を意識させる為、そして主体的に学習する為に、どの学年、どの単元においても、「つかむ」「調べる」「まとめる」そして「ひろげる」「いかす」という学習の進め方を意識した記述を確実にっております。また知識、理解を確実に抑えるために、言葉として明示され、重要語句が分かり易くなっております。社会科としては、資料の読み取りが大変重要視されていますが、それを「まなび方コーナー」として設け、資料の読み取り方、活用の仕方を丁寧に解説しております。ドラえものの4つのイラストにより、自分でも学習を進められるようになっていきます。このドラえもんにより、社会科のものの見方として、位置やひろがり、時間、人との関り、比べる分類する、の4つの見方が培われます。学習したことをまとめる活動では、記述式で振り返れるようになっており、スペースも取られ、作業帳の要素も持っています。さらに追及できるように広げる活動も用意されています。学習内容が増える5年生、6年生は分冊になっています。続いて教育出版は、全ての学年の巻頭に、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」を明記し、社会科の問題解決的な学習の在り方を最初に強く示唆しています。基本的な重要な語句については、「キーワード」として提示しています。そして単元の最後には穴埋め問題等が設置され、書き込めるようになっており、作業帳的な使い方もでき、知識の定着を図れるといえます。問題解決的な学習、主体的な学習を促すために、1時間ごとに「この時間の問い」を明記し、更に1時間ごとに、次につなげようという表記で、次時の疑問を発していきます。学習の進め方、資料の読み取りを重視するために、「学びのてびき」として設け、資料の読み取り方、活用の仕方を丁寧に解説しています。資料の中の文字を可能な限り少なくして、資料を大きくして掲載しています。また、資料としての写真は、見切りを大きくして、写真を大きく掲載しようとしており、キャプション、解説に重きを置いています。日本文教は、豊富な文字量、つまり文字資料が充実しています。その中で基本的な語句、重要な語句は、「キーワード」として提示、更にその語句の解説を行い、知識の定着を図っています。社会科はよく、語句、言葉が難しいと言われるますが、この語句の説明は、学習の効率化が大きく図れると考えられます。資料には番号が付けられており、本文中にその番号が記載され、本文と資料が一致出来るようになっていきます。子供達自身で主体的な学習が出来るようになっていきます。更に「やってみよう」「学び方・調べ方コーナー」が設置され、資料の読み取り方、活用の仕方を解説し、主体的学習をより促しています。キャラクターが多く登場し、交流場面が随所に設定され、

学習の具体的なアドバイスがされており、対話的で、深い学びが行われるようになっていきます。「見方・考え方コーナー」では、社会科のものの見方、空間、時間、人との関り、の3つの見方が培われます。各単元末には、更に課題が解決できるように、「わたしたちの学びを生かそう」や「さらに考えたい問題」が設けられ、学びの連続性を図っています。以上で報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「社会」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(内田みどり 委員) 東京書籍さんだったと思うんですが、ドラえもんをキャラクターにしていろいろな活用のポイントというのを説明されていました。他の教科書と比較させていただいたときに、このドラえもんというのが、とても違和感があり、目が行くんですね。これ活用のポイントとしては最適なキャラクターだなと感じたところですから、やはりキャラクターを使うときに、男の子ですとか、女の子ですとか、いういろいろなところに男の子や女の子の写真が出てくるわけじゃないですか。そうすると目がどうしてもどれを見たらよいのかなと、見たときに悩んでしまったときに、そこにドラえもんが入ってくると、すぐ目が行くので、私はこの教科書は割合と見易いなと感じ、6年生まで同じキャラクターですけれども、とても見易く感じました。意見です。

(中野住衣 委員) 質問ですが、先ほどからデジタル教材のことが出ていて、これからインターネット学習が可能になるということですが、それに関してです。高学年を見ると1冊にまとめてある教科書が多いのですが、分冊になっていると、とても軽くて持ち運びやすい。随分重さが違うなと感じました。高学年になると更に、資料集のようなものを皆さん持っていて、詳しく調べ学習等に使ったり、授業中にも使うので学校に持参すると思うのですが、これからインターネット学習が可能になると、資料集の厚いものは購入しないような方向にいくのでしょうか。そうなれば教科書の重さだけを考えればいいのかと思ったのです。そこだけ教えてください。

(倉品幸二 社会科専門部会長) デジタルコンテンツは本当にこれからの授業の改革の一つかと思っています。特に上尾市はWiFiが入るということで、非常にこれについては大きな、社会科としては資料を大事にするという上では、とても大きなコンテンツだと思っています。中野委員さんがおっしゃった通り、資料集の活用、このデジタルコンテンツが、更に各教科書会社が、充実していくものになっていくのであれば、資料集の購入もまた一考、考えられる部分になるのかなというふうに期待しております。

(細野宏道 教育長職務代理者) 資料に関してなんですけれども、社会科という教科の特徴的には資料を使う、それで日本ないし世界を読み解くというのが大変重要だと思っています。今先生が言われたように、正に今後資料をどう使うか、児童がそれを自分のものにしていくかということで、昔はデジタルコンテンツが無かったですから、今回資料集がついているものがありますし。例えばある説明の中でも、ある者は資料が充実していると言われておりましたけれども、その資料というのを教科書として、デジタルコンテンツで受け取るのか、それとも資料集として付けたものを、常に子供達が持っているのかということは、現時点ではどちらを優先していらっしゃるのか。これから期待をしているというのは分かるんですが、この教科書は今後1年使うものですので、その辺、技術の進歩、予算のものもありますので、その辺の兼ね合いで、どういうふうに選定をしていったら良いのかなというのを教えていただきたいと思います。

（倉品幸二 社会科専門部会長） 社会科にとっては本当に資料が命です。資料があつて授業が成立する。その時のポイントは、どの資料を活用するのかというのが指導者の一番大きなところだと思います。ですので、資料は沢山あった方が良いでしょうけれども、その全てを使うことが果たして、授業の45分間を充実させるかということそうではないので、そこところが教師がどこの資料を活用するかがというのが、ポイントだと思います。ただ資料はデジタルコンテンツのような、いろいろな資料をもっていて、それは子供も分かっている、教師も分かっている、その中の選択が一番重要ではないかなというふうに考えますので、教科書の充実と、デジタルコンテンツの充実、また資料集の充実が重要かと考えています。

（池野和己 教育長） 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「社会」の質疑を終了いたします。続いて「地図」の説明をお願いします。

（倉品幸二 社会科専門部会長） 社会科地図帳につきましては、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、巻頭から3年生の学習内容を意識し、地図学習への導入、使い方が丁寧に書かれています。発達段階、特に学年の学習内容に応じた資料、例えば、本地図帳の後半部の各資料などが豊富で精選されており、調べ学習や論理的説明をするための根拠や理由の材料としても活用しやすいと考えます。地方別の地図の中での情報量が非常に細かく、多いと言えます。各ページにキャラクターが多く登場し、資料を見る視点や資料から考える視点を明示しています。インターネットに接続して自らより深く学習できるように、Dマークが掲載されています。色彩が非常に鮮やかです。見開きページが4ページもあり、広く見渡せる地図となっています。6年生の歴史学習では、地図を使うことが減る傾向にありますが、巻末の資料ページでは、歴史学習に活用できるページが6ページあり、世界との関係も見て取れます。次に帝国書院は、巻頭から12ページにわたり「地図のやくそく」として、方位や地図記号、縮尺など例を挙げながら丁寧に説明されており、地図学習に対する基本的知識が習得できるようになっています。本地図帳後半、統計資料ページでは、地形や産業、交通、歴史に関する資料とともに地図を載せ、地図と関連させて考察できる構成になっています。色彩については、土地の使われ方や高低差を組み合わせた色分けがなされており、立体感のある柔らかい色彩で表現されています。大都市周辺の地図では、土地利用の様子が8色で表現されています。「地図マスターへの道」や2次元コードを活用し、さらに詳しい資料を用意するなど、自主的な学習を促す工夫をしています。巻頭の広く見渡す地図では、縮尺と物差しの関係が、大きく掲載されており、距離がつかみ易くなっています。地方の地図内の情報については、精選されたものが表現されており、探し易いと言えます。以上で、報告を終わりにします。

（池野和己 教育長） ありがとうございます。ただ今「地図」について説明していただきました。それでは説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

（中野住衣 委員） 社会の教科書と合わせて地図の方も丁寧に見させていただいたんですけども、日本の領土について扱われています。1者の方は、地図の中に日本の領土という項目が設けられていて、2ページの中にしっかり書いてあって、もう1者の方は、その地図の中に入ってくる部分で出ている。その扱いが違うのかと思ったのですが、その辺の領土についての教科書と地図帳の扱いについてはどのようにお考えなんでしょうか。

(倉品幸二 社会科専門部会長) 正にこの領土については、今回の改定で強く打ち出されたひとつでございます。1者についてはその通りで、2面に渡って一つの領土として扱っているものと、地図の中に「ここがそうですよ。」と掲載されているものがあります。これは授業の持ち方だと思います。ただ、教科書では大元に2ページ見開きで、この3つの北方領土、尖閣、竹島の問題には触れているので、どちらかというとなら2ページ見開いたほうが、分かり易い部分は教師として、また子供としてはあるのかなというのが専門委員会の中では出たお話でございます。以上でございます。

(中野住衣 委員) もう1点良いですか。新しく出て来た内容ということで、領土についてもお話がありましたけれども、もうひとつ特徴的に思ったのが防災について。これも新しい時代の中で、今必要な内容だと思うんですけども、1者の方は、4ページ防災について取ってますよね。それは事例だけではなくて、災害を防ぐ工夫まで含めて4ページ扱いをしている。こういうことも地図帳の中に書かれているんだなということで、とても興味深く見たんですけども、それについても何か話題が出ましたか。

(倉品幸二 社会科専門部会長) 防災については4年生から確実に、防災について、予防とか災害時の対応ですとか、組織的なものまで学習していきます。地図帳にそれを反映するというのも、これも新しい試みかなと思っています。1者の方は、防災マップの作り方までという丁寧な説明も入っていました。どちらが良いかという部分は別にしましても、資料としては豊富な方が良い部分もあるのかなというのが専門委員会の中では出たところでございます。以上でございます。

(小池智司 委員) 地図帳を見たときに、一番最初に地図の約束というところで、1者については凄く丁寧に使い方を書いています。もう1者は意外と簡単に説明してある。その辺りは授業の中で、今東京書籍さんを使っているんで、使い方というのは詳しくは載っていないですけど、今の授業の中では、その辺りは、もう1者の約束が詳しく載っている方と同じように児童達に指導されているんだと思いますが、ぱっと開いたときに、日本列島の地図がひとつの方はきちんと載っていて、県ごとに分かっている。日本の中でどこの県がどこにあるというのが見易いんですけども、もう1者の方は、巻末の後ろの方にある。使い方としてどちらの方が小学生として使い易いのかお伺いしたい。

(倉品幸二 社会科専門部会長) 地図帳の今までと大きく違うところは、今までは地図帳は4年生から配布されていた。来年度から3年生で配布、3年生と4年生はとて大きな違いがあると思っています。3年生になる前は生活科のみで、いわゆる地図ももっと簡単なものから入っているので、最初の出会いというのは、一生を左右するものですので、丁寧に書かれているという部分は、もう1者の方。ただ、3年生のあたりの鳥観図からいうと、もう1者の方も、丁寧に扱っています。両方丁寧ですけど、どちらに重きを置いているかなというところの違いかなと思います。本当に最初に触れる地図としては、あまり細かいというよりも、大きな鳥瞰としてみる部分も必要なかなというふうに考えております。以上でございます。

(細野宏道 教育長職務代理者) 12ページに渡って書かれている地図の約束というのは大変インパクトが僕にはありました。教科書という日本語で書かれている、本というか、書物というか、それではなくて、地図帳というのは、全く他のものと違うもの、教科書ですので、それでこれをどうやって授業に使うのかなというのをやはり児童も考える、それから気づく、感じるのだと思うんです。そこで先生方が、12ページを使って、地図ってというのはこうやって書いてあるんだよ、こういうもので、こ

ういうのは、こうなっているんだよ、というものを説明されるのかなと思いましたので、この12ページにわたる地図の約束というのについて、専門部会でどういう議論があったのかというのをもう一度お聞かせ願いますか。

(倉品幸二 社会科専門部会長) 先程も申しましたけれども、地図の出会いとして、特に子供達が初めて、目にするもの。社会科で始めて扱う地図帳という話をしてみましたけど、地図帳の良いところは、他の教科や領域でも使えるという部分、社会科だけではないという部分がひとつのコンセプトかなというふうに考えた場合に、その12ページに渡る、詳細な使い方というのは、とても重要視しているという専門部会の中の話でございます。やはり個人でも読めて、学習が進められるという部分では、その12ページの扱いは、1冊の地図帳としては厚くなってしましますが、12ページというのは子供達の自主学習であり、家庭での学習でもあり、授業でも使える、他の授業でも使えると考えると、この12ページの扱いはとても大きいという、そのような意見が多かったです。

(細野宏道 教育長職務代理人) ありがとうございます。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「地図」の質疑を終了いたします。続いて「理科」の説明をお願いします。

(増田司 理科専門部会長) 理科につきましては、6者が発行しております。信州教育出版は、見本の本を送付しないということでした。したがって、調査できず、5者を研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、A4判サイズで記載されています。単元末の「確かめようのコーナー」が観点ごとに分類されており、学習内容を確認できるようにしています。考察の「レベルアップ理科の力」では、児童がじっくりと考える時間が確保されるようにしています。課題の提示や考え方などを導くために、漫画形式で教師と児童の対話が挿入され、予想を立てる場面では人物のイラストを用いて自然の事物・現象に疑問を持つように促しています。単元の終わりに「理科の広場」があり、身近な生活と結び付けて考えられるようになっています。大日本図書は、A B判サイズで記載されています。単元末の「確かめよう」や巻末の「学年のまとめ」で習得した知識・技能を単元ごとに穴埋めで確認できるようになっています。観察・実験では条件制御が必要な根拠をイラストを用いて示し、発達段階に応じて論理的思考がつくようにされています。学習テーマごとの問題解決の過程において、予想や仮説を設定する活動と結果を見直し振り返る活動を意図的に取り上げています。理科の玉手箱など学習した内容に関連するものが紹介され、日常生活に照らして考えられるようになっています。学校図書は、A B判サイズで記載されています。単元末の「できるようになったこと」で学習を振り返り、知識の定着が図れるようになっています。問題設定で「話し合い」の場面を設定し、対話を通じて深く学べる場面が多く取り入れられています。科学者の写真が掲示され科学者の伝記を読むことを推奨し、科学の芽を育てようとしています。各単元とも問題・観察・分かったことの流れで見通しを持ちやすくなっています。巻末に「大事なことば」や「調べ方」で、児童が自分自身で学習できるようになっています。教育出版は、A B版大型サイズで記載されています。単元末に習得の度合いを確認できる評価問題「確かめ」を配置し書き込みができる構成になっています。「結果から考えよう」で先生が問いかけ、児童が考えをつくっていく構成にし、発表し合う場面を取り上げています。観察・実験の展開の中で、実験器具の使い方や安全指導を掲載し、見通しをもって観察・実験ができるようにしています。系統性を重視して小中7年間の流れを示しています。単元の巻頭に学習内容にあった人物のメッセージ等を掲載し、意欲を高めています。啓林館は、A B判サイズで掲載されています。単

元末の「たしかめよう」には、基礎的・基本的な問題を掲載し、知識・技能の定着を図っています。巻末の資料には「算数の窓」があり算数との関連が記載されています。単元末の「確かめよう」の中の「活用しよう」で発展的な学習に取り組めるような問題が掲載されています。問題解決の流れが一目で分かるように、問題解決のステップをフラッグで示し、1本のラインにつないでいます。単元末の「たしかめよう」から「つなげよう」で学習したことが実生活に生かされるようになっていきます。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「理科」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(細野宏道 教育長職務代理者) 少し概念的になってしまうかもしれませんが、理科という教科は、身近なものが子供達の周りにあります。そうすると、あれ何でかな、子供達は興味を持つわけです。理科という教科はそれを考えて、じゃあ実験してみましょと導いていく、いわゆる論理的な思考になると思います。そんな観点で考えると、その理科という教科を理解し易いと思うような教科書というのは、そういうのが記載されていたというのはありましたか。

(増田司 理科専門部会長) どの教科も、実験をやる流れというものが、非常に見易くできています。その中で、最初に予想を立てる場面がしっかりできていますので、子供達はその予想の中で、合ってる、間違っているは置いておいて、自分の考えをもってしっかり予想を立てて検証していこうという流れが全ての教科書で出来ていますので、どれも良いと思います。

(細野宏道 教育長職務代理者) わかりました。

(中野住衣 委員) 今の校長先生のお話ですが、その通りなんです、その持っていき方、いわゆる実験の結果から結論に持っていくところが児童の思考の流れにそって自然に流れ、ここから児童がこういうふうに導いて、更にそれを確かめて、学びを広げたり、次の課題につなげたりというところで、多少、各者の違いが見えました。その辺が児童サイドでゆっくり流れ、児童の吹き出し等も入り分かりやすいものと、ちょっと押し付け的に結論に導いているかなと感じるものがあったのでその辺はどうでしょう。話題に上りましたか。

(増田司 理科専門部会長) 確かに、それは会社によって違うものがあるかなと思います。流れが分からない子には、イラストを使って会話形式で、非常に見通しが立てやすく、それは良い点があるなとそれはどの教科書でも似たような形では、よろしいと思います。

(内田みどり 委員) 素朴な疑問なんですけれども、先ほどからQRコードがいろいろと話題になっておりましたけれども、結構NHKのサイトの方に、引っ張られていくのが多いんですけれども、やはり資料的にはNHKのサイトを利用するというのは、学校教育的には、いろいろ利用というものは多いものなのではないでしょうか。

(増田司 理科専門部会長) そうですね。多いかと言われると難しいところですが、ただNHKで扱っているものは、科学的に、あまり主観等入れずに流しているものが多いですので、学校では使い易いものがあるかなと思います。

(内田みどり 委員) ありがとうございます。

(大塚崇行 委員) どの教科にも共通するものなのかもしれませんが、大きさですよね。この中ですと、1者だけA B版で、他はA 4版とあって、大きいと見易いというのがありますが、それによってどの教科でも大きなもの、あと厚いもの、そういった部分での重さがどうしても重くなってしまいます。どちらを重要視したほうが良いのかなというのを、それが毎回迷うものですから、すいませんお願いいたします。

(増田司 理科専門部会長) 手元にある5者の中で3種類ございます。教育出版がA B判のちょっと大きめ、その他の会社がA B判となっています。当然大きければ大きいほど中の資料とかが多く出せますし、大きい写真も載せられますので非常に見易いなど、そういう利点はあります。子供の机がちょっと小さいので、あんまり大きすぎてしまうと、ちょっと邪魔になってしまうのかなという点もあるかなと、ここはどちらも取れるところです。

(大塚崇行 委員) はい。ありがとうございます。

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。ありがとうございました。以上で「理科」の質疑を終了いたします。続いて「生活」の説明をお願いします。

(浅沼正義 生活科専門部会長) 生活科につきましては、8者が発行しております。信州教育出版は、見本の本を送付しないということでした。したがって、調査ができず、7者を研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、上巻冒頭にスタートカリキュラム「どきどきわくわく1ねんせい」を掲載し、安心して学校生活をスタートできるよう配慮しています。巻末の「かつどうべんりてちょう」に、活動の知識、人との関わり方、安全・マナーの技能・情報が掲載されています。上巻の巻末に切り離し可能な「ポケットずかん」があり、野外活動に使用できます。どの單元においても学習内容が明確であり、活動が充実しています。「学びを深める」ページには、友達との対話による学びの姿が例示されています。大日本図書は、上巻冒頭にスタートカリキュラム「しょうがっこう せいかつ はじまるよ」を掲載し、安心して学校生活をスタートできるよう配慮しています。コラム「せいかつことば」は、言語活動の充実を図るために活用できます。上下巻を通して描かれているしかけ穴が、児童に興味関心を持たせるとともに、活動の焦点化や多角的なものの見方ができるような構成となっています。巻末にある「がくしゅうどうぐばこ」が充実していて、学習活動の手引として役立てられます。学校図書は、上巻冒頭にスタートカリキュラム「がっこう だいすき」を掲載し、意欲的に学校生活をスタートできるよう配慮しています。2年間を通して、4人の登場人物とともに学習しながら成長する構成で、児童が自分自身について考えるよう工夫されています。学習過程を「どきどき、いきいき、ふむふむ、にこにこ」の4段階とし、すべての学習で明示しています。巻末の「学び方図かん」や巻中の「ものしりノート」は、活動の仕方や体験の広がりを示しています。教育出版は、上巻冒頭のスタートカリキュラムに写真を豊富に掲載し、学校生活の様子が分かるように配慮しています。絵本のキャラクターの使用、絵本的なページ構成等、児童に親しみを持たせる工夫がされています。児童から引き出したい「6つの力」をサイコロで表記し、学習の目当てを意識しやすくしています。各単元末にふりかえりを書き込めるスペースがあり、学習のまとめとして活用できます。巻末の「学びのポケット」中に国語、音楽、図工等の教科マークが明示され、他教科との合科・関連が図れます。

光村図書は、上巻冒頭にスタートカリキュラム「あたらしい 1ねんせい」を掲載し、期待して学校生活をスタートできるよう配慮しています。学習過程を「ホップ、ステップ、ジャンプ」の3段階とし、「みつめる やってみる つたえあう」どの段階でも活動場面の絵や写真を中心に学習する構成となっています。自分の思い・やってみたいことなどをシールに書き、1年間の学習のまとめに活用するという工夫があります。巻末に「きせつのおくりもの」「ひろがる せいかつ じてん」といった充実した資料があります。啓林館は、上巻冒頭にスタートカリキュラム「がっこうだすき あいうえお」を掲載し、「あいうえお」の見出しでインパクトを持たせるように工夫しています。学習過程を「わくわく、いきいき、ぐんぐん」の3段階とし、すべての学習で明示しています。毎単元の導入部分「わくわくボックス」は、児童に興味・関心を持たせるような工夫です。「できるかな できたかな」は、主体的に取り組む手だてや振り返りとして活用できます。巻末の「がくしゅうずかん」は、インデックスが付されたデザインで手引きとして活用しやすいものです。日本文教は、上巻冒頭のスタートカリキュラム「いちねんせいになったら」に写真を豊富に掲載し、学校生活の様子分かるように配慮しています。板書や学習のめあてが記載されていて、児童の思考を整理したり広げたりする手助けとなります。「気付く、深める、つなげる」の3要素が見開きページでまとめてあり、見通しをもって学習を進められます。巻末の「ちえとわざのたからばこ」や巻中の「ポケット図かん」には、人との関わり方、安全・マナーといった技能・情報等が掲載されています。これで、報告を終わります。

（池野和己 教育長）ありがとうございました。「生活科」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

（中野住衣 委員）生活というと児童の主体的な活動によって出てきた気づきが大切と言われます。気づきから活動が計画されますが、活動だけで評価される場合もありますが。教師の力量に関係しますが、その気づきをどう高めていくかということがとても大事だと思います。その点について、各者どんな工夫があるかということで、どんな話題が上ったのか教えてください。

（浅沼正義 生活科専門部会長）どの教科書会社もほぼ同じような形では出ているんですけども。登場するキャラクターであったり、あるいは先生や子供達の写真や図であったり、そういうものの吹き出しが多くの場合は、教師がこの単元を進めていく上で、あるいは子供達に気づいてもらいたい、力をつけてもらいたい、そういったことのヒントになるものが吹き出しに多く掲載されている場合が多かったです。

（池野和己 教育長）ありがとうございました。他にありますか。

（中野住衣 委員）もう1点お願いします。各者、説明の中にもありましたが、幼稚園・保育所等から小学校に入学してスタートカリキュラムがありますが、生活というのはとても大切な教科だと思います。この生活の学習を進めながら色々な体験をし、小学校生活に適応させていくということがあって、その中には基本的な生活習慣をしっかり身に付けていくことがあります。最初のスタートカリキュラムに挨拶や自立に向けた一つ一つの行動が細かく出ていて、それは各者それぞれに特徴がありますが、とても充実しているなというものもありました。保護者向けにも、小学校に入るとこういう力を付けていきますよということが説明してある教科書もあり、保護者も安心してそれを見ながら家庭でもそういう力を付けていこうと考えられると思います。その部分は大切に

してほしいと思いました。生活と他教科を関連させながら、低学年、1年生は特に教科等の学習活動が円滑に進められるようにするということもあり、ぜひスタートカリキュラムの充実した内容を大切に考えていただければと思います。各者多少の違いはあるように思います。よろしく願いいたします。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。他にありますか。

(細野宏道 教育長職務代理者) 生活ということで、小学校1年生に配られると思いますけれども、様々な発行者から出されていたんですが、この教科書だと小学校1年は入りにくいなど、私個人は感じました。最終的に、中野委員さんが言われてましたけど、他の教科に関連をしていくということになると思うんですけれども、そういう中で他の教科への発展は、これは良いねとかという議論をされたものというのはあるんですか。

(浅沼正義 生活科専門部会長) 例えばこの教科書会社のこれは良いねということでしょうか。

(細野宏道 教育長職務代理者) そうなの重要だねとかそういうものです。

(浅沼正義 生活科専門部会長) 他教科との関連については、生活は委員さんのおっしゃる通りで、とても重要だというふうに部会の中でも話は出ました。ただそれが最初の1年生の巻頭の部分に載っているものがあたりとか、あるいは巻中の中で希望的に載っているものだったりとか 最後の巻末の部分にまとめて載っていたりとか、それは各者の工夫にはなっているなど。それは授業で用いる場合に、教師の側できちんと研究をして、取り組んでいかななくてはならないかなというのは部会の中で話し合いで出たと思います。

(細野宏道 教育長職務代理者) ありがとうございます。

(中野住衣 委員) もう1点気づいたことで安全についてです。日常に安全面の不安が大変ありますね。学校生活の上でも。比較的早い時期に、通学路の安全について学べるよう2ページしっかり取ってある教科書がありました。それはとても大事なことだと思いますのでよろしくお願いします。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「生活科」の質疑を終了いたします。ここで、暫時休憩いたします。その間に、次に報告する資料作成委員の準備を行いたいと思います。再開は、午前10時30分から、音楽科を行います。

～ 休憩 ～

(池野和己 教育長) それでは協議を再開します。「音楽」の説明をお願いします。

(石井都 音楽科専門部会長) 音楽につきましては、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。教育出版は、基礎・基本を確実に身に付ける主要部分と選択可能なオプション部分の教材で構成されています。「まなびナビ」「音楽のもと」「メモ欄」など、発達段階に応じた学力の定着への配慮、表現と鑑賞の活動を効果的に組み合わせ、学習がより深まるようになってい

ます。興味・関心を引き出す写真や図版、主体的な学びを引き出す透明シートやWEB上資料など、豊富な資料や読み物が設定されています。軽量化され、低学年の教科書は他学年に比べて小さくなっています。折り込みを使い、ワイドな紙面となるよう工夫されています。「君が代」は、全学年で同一な配置となっています。教育芸術社は、系統性及び発展性をもって組織された題材を軸に、表現と鑑賞の教材が関連・対照・対比されながら組み合わせられています。積み重ねや繰り返しの学習により学力の定着、伸長を図っています。「学びの地図」、「ふり返りのページ」、ICT機器の活用など、見通しをもって学びに向かう内容となっています。児童の作品例などの掲載で言語活動の充実、主体的・対話的で深い学びに迫るように工夫されています。ユニバーサルデザインの理念に基づいたシンプルな紙面の構成になっています。「君が代」の扱いを全学年配置するとともに、発達段階を考えた写真やコラムが工夫されています。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「音楽」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(小池智司 委員) 質疑という訳ではないんですけども、ちょっと申し訳ないんですけども、見てどこに載っていたのか、どっちの教科書なのか定かではないんですけども、たしかリコーダーかなんかのところで、教科書に載っている文言で、書いてある言葉が、強制するような感じに、「やってみよう」とか「こういうことに注意してやりましょう」とかいうのではなくて、「やりなさい」みたいなふうに書いてあった教科書が、ちょっとあったので、ちょっとそれはあまりにも強制するような言葉を使ってあって、気になったところがありました。それがちょっとどこに載っていたのか、見えていてメモしていなかったもので、記憶に定かではないんですけども、ちょっとそれが気になったところがありました。

(池野和己 教育長) 何年生か分かりますか。

(小池智司 委員) それもちょっと分かりません。

(池野和己 教育長) 現物がありますので見ていただいて分かったら教えてください。その間に他に質問がありますか。

(細野宏道 教育長職務代理者) 教科書は各学年毎になりますよね。子供達がこの1年間で何を学んでいくんだというのを、音楽の教科書に関してなんですが、より分かり易いものというのが記載されているなど感じたことはありますか。

(石井都 音楽科専門部会長) 2者ともそれぞれ見通しを持った作りとなっております、何を学習したら良いかというところが、子供達にも明確に伝わるようになっていると思います。

(細野宏道 教育長職務代理者) ありがとうございます。

(中野住衣 委員) 私、音楽の技能というと、なかなか自信がない分野なのですが、音楽教育というというのは、能力面だけでなく、いわゆる情意面、それを相互に関わらせながら指導に当たることが重要だというふうに言われますが、その部分については2者の違いというのはありましたか。

(石井都 音楽科専門部会長) 2者とも主体的な学びを意識したつくりになっておりますので、その主体的な学びから、やはり子供達がやる気を起こすような、導くような形には作られているように思います。ですので情意面でというようなご指摘がございましたが、2者とも主体的な学びによって子供達が意欲的に取り組めるようなものになっていると考えております。

(中野住衣 委員) もう1点いいですか。1者の方が、最後の6年生の学年末のところで、感謝の気持ちを込めて歌いましょうということで、「揚げば尊し」が取り上げられていたんですね。もうひとつは、埼玉県の教員の方が作ったというやはり卒業式で歌われるという歌で「旅立ちの歌」ですか、それが取り上げられていたんですね。もう1者の方は、取り上げていなかったように思うんですけども、その取り上げている教材について、何か部会の方で、話題に上ったりというのはありますか。

(石井都 音楽科専門部会長) だ今のご質問に関しましては、専門部会のほうでは、特に意見としては出ていませんでした。

(池野和己 教育長) 他にありましたらお願いいたします。小池委員さんいかがでしょうか。

(小池智司 委員) ちょっと見つけれませんでした。

(池野和己 教育長) もしそういうところで、見つかったようでしたら後でお伺いしたいと思います。が、「音楽」についてはこれでよろしいでしょうか。ありがとうございました。以上で「音楽」の質疑を終了いたします。続いて「図画工作」の説明をお願いします。

(豊田好伸 図画工作科専門部会長) 図画工作科につきましては、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。開隆堂は育成する資質や能力に系統的に触れられる題材構成となっています。そして、それらの育成すべき資質や能力を3つのめあてとして整理し、その題材における中心的なめあてを明確に示しています。また、児童がめあてを意識した活動ができるよう配慮されています。主体的な活動を重視した吹き出しや、共感的な活動を促す工夫も見られます。安全に対する配慮も充実し、道具の使い方等も分かりやすくなっています。参考作品も大きく、コメントも厳選され、先入観なく鑑賞することができるようになっています。日本文教出版は教科書の冒頭にオリエンテーションページを用意し、教科の目標が分かりやすく示され、3つのめあてが育成すべき資質や能力として明示されています。題材ではめあてから活動・片付けまでがつながりを持って示され、授業の流れが説明しやすくなっています。特に主体的な学びについては児童が見通しを持って活動できるよう配慮されています。活動の図版も多く掲載され、児童のつぶやきや補足説明から発想を広げやすくなっています。鑑賞題材では、気づきや感動をもとにした学び合いも設定されています。これで報告を終わりにします。

(池野和己 教育長) ただ今「図画工作科」について説明していただきました。ただ今の説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(大塚崇行 委員) 図画工作の作品の中に、片方の方なんですけれども、和風の作品が多いかなと感じたことがありました。そのあたり部会で何かお話はありましたでしょうか。

(豊田好伸 図画工作科専門部会長) 特に2者とも作品についてはかなり沢山の作品を載せておりまして、和風か洋風かというところについては、部会の中で話は出なかったんですけども、かなり効果的な図版を用意しているなという感想です。

(内田みどり 委員) 両方の教科書を見させていただいて、どちらもカラフルで、綺麗で、とても楽しく見させていただいたんですけども、素人から見てしまうと、どちらがどう違うか、大きな違いというのが何なんだろうというのがちょっと良く分かりづらいということだったんですけども、教育者の方から見て、これが違うっていう明確な点はございましたでしょうか。

(豊田好伸 図画工作科専門部会長) どちらも新しい学習指導要領に沿って、作られているというところでは共通していると思うんですけども、アプローチの仕方が多少違うかなと思うんですが、その辺の細かい点につきましては、調査研究資料だとかに載せさせていただきましたが、大きく言えば、やはり同じ目的に向かって2つの教科書がありますので、明確にここがこうだということは無いかと思います。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「図画工作」の質疑を終了いたします。続いて「家庭科」の説明をお願いします。

(野本智子 家庭科専門部会長) 家庭科につきましては、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、家庭科の基礎・基本の学習を「いつも確かめよう」(19項目)にまとめ、必要なときにいつでも確認し、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように構成されています。全ての大題材を3つのステップで、問題解決的に学習が進められようとしています。各大題材の最初に「家庭科の窓」を設置し、生活を見つめるときの見方・考え方の視点(協力、健康・快適・安全、生活文化、持続可能な社会)を意識して学習が進められるようにしています。学びを生活に生かす「生活を変えるチャンス!」を設定し、家庭や地域で実践したり、自分の生活をよりよくするために考えたりすることができるように工夫されています。開隆堂は、自分や家族の生活を見つめ、支えられている自分からできるようになる自分へと各題材の始まりには、学習内容に関わる課題に気づけるような写真をとびらページに取り上げています。「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップで題材を構成し、易から難へスモールステップで学習が進められるように構成されています。基礎的・基本的な知識及び技能の習得のために、製作、実習の内容は拡大写真で示され、二次元コードを読み取ると動画などで確認できるようになっています。巻末には、家庭科の用語一覧に英語の表記、利き手で作業が進められるように写真が掲載されています。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。「家庭科」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(中野住衣 委員) 家庭科ですと、技能を身に付けて、生活の中に生かしていくということがあるかと思いますが、その技能を身に付けていくところで安全面に配慮しなければならないことがたくさんあると思います。それが教科書にも示されていますが、一つ気づいたところで、糸と針を使って物を作るという5年生の教材があります。自分が子供のころから、針と糸を使うということでは注意をたく

さん受けた記憶があります。しかし、今回教科書を見ると、1者が細かく扱っていたようでした。例えば、針を使う時は針先を人に向けない、学習が始まる時に針の数を調べておき、終わりには本数があるか確認するとか、折れた針は折れ針を入れる入れ物に入れるとか、そういうことを指導されました。それが1者にはなかったようで、その辺りの何か背景はあるのでしょうか。そこをお聞きしたいのですが。

(野本智子 家庭科専門部会長) 安全面については、2者とも配慮してということになってるかと思いますけれども、ご指摘の通り、違いはあるかと思っております。

(内田みどり 委員) 片方の教科書の方の最後の一覧に、英語の記載が書かれていたんですけども、これは、授業的に何かなさるとかあるんでしょうか。それともこれはあくまでも、サービスの的についているという感覚なんでしょうか。

(野本智子 家庭科専門部会長) お話しいただいたところですけども、個人的な考え方になってしまうかもしれないんですけども、今他教科との関連ということで、外国語科というのが入っておりますので、どんなふうに、日本語ではこう言うけれども、外国語だったらどう言うのかなということで、あって良いものかなと思っております。

(内田みどり 委員) ありがとうございます。

(細野宏道 教育長職務代理者) 家庭科ということで、家庭なんですけども、部会長の説明の中で、開隆堂さんの方で自分や家族の生活を見つめ、課題に気付くということがあるんですけども、その点は、自分の周りの生活から、課題解決に向かっていくという学習に繋げていくという点で、どちらの教科書が、良いというか、何か優れている点というのは、見られたところがありますか。

(野本智子 家庭科専門部会長) やはり家庭科は生活に密着しているものですので、生活との関りについては、両者とも工夫されております。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「家庭」の質疑を終了いたします。続いて「外国語」の説明をお願いします。

(龍前進 外国語科専門部会長) 小学校外国語科につきましては、7者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、各単元が「知る」「慣れる」「活用する」という3段階で構成されており、段階的に学べるように配慮されています。4つの技能を身につけさせるための活動が学習者・指導者にとって分かりやすく示され、「何を」「どのように」学ぶかが紙面から伝わりやすくなっております。また、5年生教科書には「Picture Dictionary」という別冊資料集がつき、学習の様々な場面で活用できるように工夫されています。開隆堂は、各単元の始めに目指すゴールと関連性の強いリスニングが提示され、その後にゴールに向かって必要となる知識や技能を段階的に学習するように構成されています。書く活動については、「文字に慣れよう」というコーナーが教科書の後半部に独立してまとめられている点が他社には見られない特徴となっています。シンプルですっきり感のある単元構成になっており、与えられたテーマから指導者が児童の実態等に合わせながら活動を広げたり、新たな言語活動を考案したりすることがしやすくなっております。学校図書

は、各単元の始めに具体的なコミュニケーションの場面が明示され、学習する表現の使用場面や状況等が分かりやすくなっています。児童は基本的な表現を知った後、声に出して慣れ親しみ、その後自分の思いや考えを当てはめて表現する活動へ進みます。そして、単元末には友人等とのコミュニケーション活動を行う活動が設定されています。一時間の授業は、見開きごとに計画されており、児童や指導者が見通しを持ちやすいように工夫されています。三省堂は、単元ごとに段階的な学習がおこなわれるだけでなく、学期ごとについても、既習した学習内容の定着段階を意識した活動が組み込まれています。基本的に見開きごとに一時間の授業が行われる構成となっており、学習内容が一目で分かるように工夫されています。紙面上の配列がパターン化しているため、学習者にとっては見通しを持ちやすくなっています。単元はじめのページにおいて、指導者の自由な発想で言語活動を広げていくことができるように配慮されています。教育出版は、単元の始めに映像を見ながら学習することが特色となっています。その後、インプット活動からアウトプット活動へと段階的に学習が進められるように各単元が構成されています。そして、単元末では自分のことについて表現する活動も設定されています。ユニバーサルデザインを取り入れたページ配置がされており、学習者が分かりやすいような配慮が見られます。6年生の最後には、2年間で学習した総復習としての活動として、自分のことを書き綴った小冊子を作成する活動が組み込まれています。光村図書は、各単元が3つの段階で構成されており、易から難へとスモールステップで学習が進められます。単元ごとに学習のゴールが示されているため、児童にとって「どのようなことができるようになるか」が分かりやすくなっています。見開きページで一時間の授業が計画されるため、時間内の学習の流れや時間配分を把握しやすくなっています。巻末には「ペンマンシップ・シート」があり、水性ペンを用いて何度でも文字を書く練習をすることができます。啓林館は、各単元が3つの段階で構成され、新しい表現を知った後に、活動を通して定着を図り、発表活動等へと学習が進められています。単元末に行われる対話や発表の中で必要となる語彙を、巻末にあるリストの中から選択しながら活動を進めることも工夫されています。また、ページ上にある2次元コードを読み取ることにより、音声や映像を活用することができます。指導者の自由な発想で言語活動を広げていくことができやすいように配慮されています。以上で、報告を終わります。

（池野和己 教育長）「外国語」について説明していただきました。それでは質疑・意見等がございましたらお願いします。

（内田みどり 委員）どの教科書にも2次元コードが付いていたと思うんですけども、外国語のこの教科書にも2次元コードが付いておりまして、英語教育ほど沢山使っていただきたいなという気がしたんです。ただ残念なことに、その教科書によってはとても役立つQRコードもありますし、タイトルだけしか読まないようなQRコードもございました。一番欲しいなと思ったQRコードが、中学校の教科書で、リスニングのところでヘッドフォンのマークがついていて、それは学校で問題を流して、答えは何でしょうという問題が出るんですけども、それは学校で出来ても、家で絶対復習ができないページだったりするんです。それがQRコードでもし出来るのであれば、家に帰って聞き逃していた部分を、家でも聞けるなというのがあるんですけども、それが残念なことに、ある教科書もあるんですけども、無い教科書もあって、出来ればそういうのを便利に使えるようなQRコードが付いていれば良いなというのはありました。ちょっとそれは私の意見なんですけれども、そんなことも参考にしていただけたらなと思います。

（中野住衣 委員）今、内田委員さんが話していたデジタル教材について、今後授業の中での活用とい

うのは、見通しとしてどんな風に考えているのか教えていただけますか。

（龍前進 外国語科専門部会長）今回、専門部会の中では、デジタル教科書については、まだちょっと見ていないという状況です。教科書の紙面だけを見ての研究ということだったので。ただ、先程2次元コードという話もございましたけれども、専門委員のうちの一人が試しにやってみたところ、音声が出てくる、そういうところもありました。そういう部分については、おそらく活用ができるというふうに思います。

（中野住衣 委員）今回、小学生が、教科書を使って英語という学習をスタートするというので、中学生以上でない小学生という実態を踏まえてどういう教科書が良いのか考えなければと思ったのです。その時に小学校低学年が国語を始める時に読む、聞く、話す、書くということを相互に関連させながら、繰り返し繰り返し簡単なことを練習して身に付けていくようなことを連想しました。そういう日本語の勉強のように、スタートのところでは、読む、聞く、話す、書くことを繰り返しコミュニケーション活動ができるような簡単な分かりやすいシステムで構成されている使いやすいものが良いのかなと思いました。その辺のことについてはいかがでしょう。

（龍前進 外国語科専門部会長）中学校の教科書ですとイメージ的にかなり英文が沢山書かれているというイメージがあると思うんですけれども、今回見させてもらった教科書にはほとんど、まとまった英文が記載されているというページが少なかったです。というよりもむしろ、コミュニケーションを図りながら、その言語活動を通して、いろいろ定着させる部分があるので、今回7者については、それはどこの発行者についても、良く練られて考えられているなど、音声、聞く、話す、それから自己表現活動を重視する、そういう活動が本当に大事だと思います。

（中野住衣 委員）それについてですが、人間は、何か思考する時に言語を使って思考しますよね。現在、書く活動は少ないと思いますが、最初の段階で、書くということも合わせて聞いたり話したりする学習が展開されるのが大事だと思うのですが、書くということはどうなんですか。

（龍前進 外国語科専門部会長）現行の本年度行われている指導要領においては、小学校では書く活動はそれ程なかったんですが、新しい指導要領では、書くという活動を小学校で行うということになりました。ただ書く量、書かせる量自体は、それ程多くはないのかな、どの教科書もまとまった英文をいくつもの文を書かせるとか、そういうような活動をさせるような部分は、無かったかなというように思います。

（中野住衣 委員）分かりました。

（細野宏道 教育長職務代理者）ありがとうございました。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングというのがありますが、小学校の児童が、英語を学ぶということが最終的に中学校でも学ぶ訳ですね。そうするとどれに重点を置いて、子供達に英語というものを教科として学校で教えていくか、いうことは、僕は実は大変難しいと思っています。こんな話をしたのは、全国学調の記事が8月の新聞にも載っていましたが、3単元Sは全く分からない、そういう問題がいろいろ出てくるんですけれども、小学校で、例えば今回見させていただいた教科書ですけれども、僕はちょっと先生と違って、すごい英語がいっぱい書いてあるなど実は思ったんです。ただこれらをリスニ

ングとしているのが、重要だなと僕は思っているんです。それを聞いてコミュニケーションに繋げていくということは可能だと思うんですけども、それを最終的に語学として、中学校に繋げていくのは、どうやって繋げていくのかなと、すなわち、始めは英語ということに興味を持たせて、すんなり入っていくというのを重視するのかなあと思うんですが、その辺、専門部会としては、どういう観点で教科書を選んだらよいのかなと議論はされましたか。

(龍前進 外国語科専門部会長) やはり言語を習得していく上では、いきなり書くとか、読む活動ではなくて、やっぱり音声から入るというのが、ごく自然の流れかなと思います。従いまして、小学校の外国語についてはやはり3年生から今度、外国語活動が始まりますけれども、そういう部分が多分活動的に多くなるのかなというふうに思います。5、6年生の教科書についても、それを意識した教科書がすごく多いというふうに思っています。ただ書く活動についても、新しい指導要領から入りましたので、その部分を全くやらないという部分は見られなかったので、単語を書かせたり、簡単な英文を書かせたりという活動はどの教科書でも取り入れられています。

(細野宏道 教育長職務代理者) 文科省の方で決めた訳なので、どうのこうのいうつもりはないんですが、ただ、書くことを小学校に入れたというのは、個人的にはどうなのかなあとは思っているんですけども、それ以上に読む、そして自分のコミュニケーションとして、何かを発信をすること、をより重視をする、重視というか、そういうことが、活動から教科に変えていく、小学校に導入してきたという、本来の意味というか、そちらを重視した方がより中学校で英語を学んでいくというふうに繋がっていくのかなと思うんですが、その辺は議論されましたか。

(龍前進 外国語科専門部会長) 特にその部分については、専門委員会では、話は出てなかったですけども、ただ、今回5、6年の教科から、3年生から外国語活動が始まっていますので、3、4年生の外国語活動については、書く活動が全くないような状態で、5、6年になって初めて、アルファベット、あと簡単な単語、そんな長い英文を書く活動ではないんですけども、ちょっと自分で書けるんだらうかという活動が始まったという捉え方、各会社の方作られているなというふうに思っています。

(細野宏道 教育長職務代理者) あと1点だけ。ある出版者には、ディクショナリーが付いていたんですが、そういうものについて、こういうものを付けたというのが、良いねとか悪いねとか、こう活用できるねとかいうような議論はありましたか。

(龍前進 外国語科専門部会長) 今、お話しになったのは別冊の資料集という捉え方でよろしいでしょうか。

(細野宏道 教育長職務代理者) はい。

(龍前進 外国語科専門部会長) 先程のご報告の中にも、含めさせていただきましたけれども、それが特徴になっている部分がありました。それを別冊にしたのは1者だけだったんですけども、それと同じようなものを教科書の後ろの付録のページのところで入れている。そういうような会社もありました。どちらが使い易いのかというのは個人の捉え方だと思うんですけども、どの会社も巻末の資料が、かなり充実しているなあという印象は持っています。

(中野住衣 委員) 本市の児童・生徒に英語の学力を身に付けさせるためには、本市の中学校で、今使用している英語の教科書ありますよね。その会社のものを小学校段階でも使用した方が、接続という意味では、学力を定着させる意味でも良いのではないかということは、専門部会で話は出ましたか。

(龍前進 外国語科専門部会長) その部分についても、話題にはなりましたが、本部会では、中学校の教科書をまだ見ていないので、その辺の接続がどの程度支障が、他の会社を選んだ時に不便を感じるのかというのは、そこまで話にはなりませんでした。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「外国語」の質疑を終了いたします。続いて「道徳」の説明をお願いします。

(小林斗志子 道徳科専門部会長) 道徳につきましては、8者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、道徳的価値を自分との関りで理解させる工夫が随所に見られます。人との関わりの中で考えることができ、学習活動ページ「出会う・ふれ合う」を各学年に二か所ずつ掲載しています。道徳性を育成する「つながる・広がる」や巻末のふろくには写真や資料が豊富に掲載されていて、各教科等における道徳との関連を明示しています。3段階で学習を振り返り、発達段階に応じ自分の成長を見つめるコーナーもあります。学校図書は自らの生活と関連付けて考えられるよう配慮されています。深く考えさせ、ねらいを達成する工夫として、「きづき」「まなび」の2分冊で構成され、「きづき」冊子で授業を展開します。「まなび」冊子では多様な学習活動を促し、自分や他者との対話を通して価値を深めさせていきます。道徳性を育成する工夫として、主な発問や道徳的価値の理解を深める活動にはマークを付けて示し、価値を深めることができるように構成されています。教育出版は、教材ごとにキャラクターによる導入で問題意識をもち、教材本文をもとにして考え議論する構成となっております。問いとしての「考えよう」、道徳的価値を深めるための「ふかめよう」、発展的な学習につなげる「つなげよう」で、授業の流れが可視化されています。また、実際の行動と結びつけて道徳的価値が学べるよう教材が配置されています。巻末には振り返りがあり、この部分が次年度へつながるように工夫されています。光村図書は、学期ごとに重点を置く視点があり、めりはりをつけ、新鮮な気持ちで道徳の学習に臨めるよう配慮されています。現代的な課題の「生命尊重」の視点については年間を通して重点が置かれています。1時間の学びが児童に見え、導入で道徳的価値について問いかけ、学びのめあてが太字で示され、めあてに沿った発問で構成されています。現代的な課題については、教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を設けています。日本文教は、教材冒頭でねらいに迫り、主題に関わる発問や、教材末の「考えてみよう」で課題が明確に示されており、現代的な課題などを取り上げる上での工夫としては、複数教材を配置し重点化し、多面的に考えることができます。体験的・問題解決的な学習に適した教材には学習の手引きが設けられています。別冊の「道徳ノート」を活用し、自分や他者の考えを記入することができます。光文書院は、各学年重点主題を設定し複数時間で扱うことにより、じっくりと考えさせ道徳的諸価値の理解を深めさせることができる構成です。「いじめ」防止については、教材に加え、特設ページが掲載されています。教材冒頭に題名と導入の問い、教材下段には学習の柱、教材末には自己を振り返る発問が掲載され、流れをつかみ学習を深めることができます。学研教育みらいは、教材との出会いや他者との対話を基に、自分とのかかわりを問い直す構成になっており、授業がスムーズに展開できます。児童の問題意識を大切にするため、主題名を記載していません。自ら考え、他者と意見を交わし、考えを深め、広げる様々なコーナーが設けられています。表紙と同じ主人公が全学年の教材に登

場し、児童と同様に成長していきます。廣濟堂あかつきは、自己の生き方について振り返ったり、実践につなげられるようになっていたりしています。ねらいを達成するため、教材末に「学習の道すじ」が設けられ、問いやめあてが掲載されています。教材末のコーナーに話し合いの柱や発問があり体験的・問題解決的な学習ができ、道徳性を育成する工夫となっています。また、別冊の道徳ノートは内容項目ごとに配置され、自分の考えを記録する欄も設けられています。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。ただ今「道徳」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(内田みどり 委員) 2点ほど質問なんですけど、学校図書の方で「きづき」と「まなび」という2冊で構成されるということなんですけれども、これは授業で両方とも持って行って授業をなさるような形なんでしょうか。

(小林斗志子 道徳科専門部会長) 「きづき」「まなび」両方を準備して、授業を受けるという形になっております。

(内田みどり 委員) もう1点です。道徳ノートですとか、一緒にノートが間に挟んであるものが何者かあったかと思うんですけど、ご指導なさるうえで、やはりこの道徳ノートの場合は指導しやすいものなんでしょうか。

(小林斗志子 道徳科専門部会長) 指導のしやすさについては、先生方、おそらく、別冊が無ければ手持ちのマークシートを準備するという形になるので、あるから便利という訳ではないかと思えます。ただ、1年間の学習の流れを見ている時に別冊ノートがあると、そのマークシートに記入した文言等が、後になって確認をすることが出来るという利点があるかと思えます。ただ、別冊ノートが付いていない教科書会社さんにつきましても、教科書の一番後ろのところに、振り返りのページが掲載されていたりですとか、各者ともそれぞれ振り返りについては、工夫されております。以上です。

(内田みどり 委員) ありがとうございます。

(大塚崇行 委員) 前の時も議論したかと思うんですけど、発問があるか、主題名があるか無いかというところで、授業の進め方にどういうふうに影響をしてくるのかということがあって、前回主題名の無いものを選んだというのがあったんですけど、その辺りに関してはいかがでしょうか。

(小林斗志子 道徳科専門部会長) 様々な考え方があるかと思うのですが、専門部会においてもこの件は話題になっておりました。主題名が明記してありますと、授業の中の方向性が一貫しますので、先生も教え易いですし、子供達も明らかにその価値内容についてしっかりと考えることが出来ます。主題が無いということにつきましては、多様な価値を学べるということでは、大変重要な部分になってくるのかなというふうに考えております。あるから先生が教え易いとか、無いから教えにくいとかそういうことでは一概にはないということがあったと思えます。

(中野住衣 委員) 今のお話ですが、現在使っている教科書は、特定の価値観に方向付けないよう主題が記載されていないなどいろいろな意味があることを教えていただきました。今回もそれについ

て考えたのですが、価値内容が書かれていないと、その授業によってねらいとなる教える内容が指導によって達成できない場合は、多様な展開はあっても不安になる部分があると思いました。あと一つ道徳の教科書というのは子供達が大好きで、自習の時間に見たり、家に持ち帰って両親と見たり、何回も読む場面があるんですね。その時に価値内容が書いてあると、ここで「思いやり」について皆で考えたなあと思いつくことができる。思いやりは、例えば、小さい子供達への思いやりと高齢者への思いやりとそれぞれの思いやりの形って違いますよね。そうした時に今回、3年の学研の資料に高齢者への思いやりの資料がありましたが、年を取っている人には、他の年齢層の人が良しとすることでも親切にならないことがあるという内容があり、こういう視点でも見なければいけないということを教えていかなければと考えます。教科書を見て授業を思い出した時に、目次なりどこかに価値内容がふられていた方が教師にとっても子供にとってもよい部分があるのかなと改めて思ったのですが。授業との関係で難しいですね。もう一つ意見ですが、今回1社の3年の教科書に、情報関連でネット依存の話が扱われていました。これは、今、いじめなど色々なことで問題になっていて、それに正対した内容だと思いました。やはり、スマホの所持率が高くなり、小学生も色々な情報に触れる機会が多くなりました。ネット依存について知り、自分がそうなったら生活を変えられるのか重要な話題だと思います。それについて悩んでいる主人公の話はとても興味深く読ませていただきました。以上です。

（細野宏道 教育長職務代理者） 最近いじめというものがクローズアップされていますけれども、僕はそれより、根本的に、人間が生を受けてきたわけですので、命というものが大変大切であると、それに関してこれらの教科書の中で、触れているというものがいくつかあるんですけども、専門部会の中ではその辺の話は出ましたか。

（小林斗志子 道徳科専門部会長） 生命尊重というような現代的な課題については、全ての教科書会社さんの方で、傾向はありますけれども取り扱っております。その中で特にということでは、話し合いの中ではなかったです。以上です。

（池野和己 教育長） 他に、質疑等はございませんか。ないようですので、「道徳」の質疑を終了いたします。ありがとうございました。以上で本日予定しておりました日程はすべて終了しました。明日8日は、朝9時より小学校の算数科の調査検討事項の説明から協議を続行いたします。本日はこれにて散会いたします。たいへんお疲れ様でございました。

～ 2日目 ～

- 1 日 時 令和元年8月8日(木曜日)
開会 午前9時00分
閉会 午前11時55分
- 2 場 所 上尾市役所7階 大会議室
- 3 出席委員 教育長 池野和己
教育長職務代理者 細野宏道
委員 中野住衣
委員 大塚崇行
委員 内田みどり
委員 小池智司
- 4 出席職員 教育総務部長 小林克哉
学校教育部長 伊藤潔
学校教育部参事 兼 学校教育部次長 関孝夫
教育総務部次長 西嶋秋人
学校教育部副参事 兼 指導課長 兼 教育センター所長 太田光登
教育総務部 教育総務課長 森泉洋二
小学校教科用図書選定資料作成委員会委員長 深澤孝忠
中学校教科用図書選定資料作成委員会委員長 森田直樹
算数科専門部会長 今泉達也
保健専門部会長 市河利之
指導課指導主事 宮田直弥
指導課指導主事 松林剛志
指導課指導主事 岸千里
指導課指導主事 岡野年良
書記 教育総務課主幹 山内和徳
教育総務課副主幹 上山英樹
教育総務課主査 鳥丸美鈴
教育総務課主任 井上建一
- 5 傍聴人 9人

6 日程及び審議結果

日程第3 協議

令和2年度使用小学校教科用図書の採択について（続きから）

令和2年度使用中学校教科用図書の採択について

日程第4 議案の審議

議案第33号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について

議案第34号 令和2年度使用中学校教科用図書の採択について

日程第5 閉会の宣告

7 会議録

日程第3 協議

(池野和己 教育長) ただ今から、令和元年上尾市教育委員会第1回臨時会を再開いたします。本日傍聴の申出はございますか。

(森泉洋二 教育総務課長) 9名の方から傍聴の申出がございます。教育長の許可をお願いします。

(池野和己 教育長) 傍聴を許可します。ご案内をお願いします。

～傍聴人入場～

(池野和己 教育長) それでは、最初に「2日目の日程」の説明を申し上げます。本日は、この後協議を続行し、小学校の残り、「算数」及び「保健」について、それぞれの専門部会長から、調査検討事項の説明及び質疑を行います。小学校の全ての教科について、説明及び質疑を終了の後、教科書選定の投票を行い、集計、結果の報告をして、小学校の協議を終了致します。続いて、令和2年度使用中学校教科用図書の採択について、協議を行います。なお、中学校につきましては、令和2年度の1年間のみ使用であり、道徳以外の教科について採択の対象となります。具体的には、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語の順に、調査検討事項の説明を、通して行い、質疑は一括で行います。説明及び質疑終了の後、教科書選定の投票を行い、集計、結果を報告し、中学校に係る協議を終了致します。ここで議案の準備のために暫時休憩を取りまして、続いて「日程第4 議案の審議」、「日程第5 閉会の宣告」と進めて参りますので、よろしく願い申し上げます。それでは早速ですが協議を続行いたします。「算数」の調査検討事項の説明をお願い致します。

(今泉達也 算数科専門部会長) 算数につきましては、6者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、題材に即した「今日の深い学び」を設定し、数学的活動を通して数学的に考える能力が高められるように工夫されています。算数を学ぶ過程で、「数学的な見方・考え方」を育む構成になっており、この見方・考え方の可視化を意識した組み立てになっています。「問題」「課題」「解決方法」「まとめ」の各内容が示され、問題解決の過程が明確になっています。プログラミング教育については、高学年で単元の学習と関連させた特設ページ「プログラミングを体験しよう」が設定されています。1～5年が分冊、6年が合本され、1年に別冊がございます。大日本図書は、「じっくり深く学び合おう」を特設して問題解決の過程を示し、多様な解決方法を読み取って説明する活動や、話し合う活動を取り入れています。学習の「めあて」と「まとめ」が意識され、「まとめ」には考え方に焦点を当てた「発見！考え方」を設定し、知識・技能的なまとめと考え方に焦点をあてたまとめとに分けた構成になっています。また、獲得した見方・考え方をメモするシートが巻末に用意されています。プログラミング教育については、全学年に特設ページ「プログラミングに挑戦」が設けられています。全学年が一冊に合本されています。学校図書は、各単元、「発見」から始まり、「解決したいな、説明したいな」等の問題解決の過程が示され、数学的活動の手立てとなる見方・考え方が例示されています。横長A B判で余白が多く、教科書上で作業しやすくなっています。また教科書の左側には問題解決の過程に対応した思考の流れが、右側には「モンスター」別による見方・考え方が示されています。6年間を通して身に付けたい見方・考え方が、学年ごとに

整理されています。プログラミング教育については、全学年に特設ページ「プログラミングの〇」が設けられています。6年が合本で別冊がございます。教育出版は、単元の導入に身近な題材や既習内容を示し、「はてな」と問い、主体的な学びを引き出し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるようになっています。その「問い」を協働的に解決し、更に新たな問いに向かうという「問いの連続」を意識した構成になっています。巻頭の「算数で使いたい考え方」は活動の手立てとなり、「4コマ漫画」で見方・考え方を振り返ることができます。プログラミング教育については、「プログラミングにちょうせん」というページが5年の図形単元に設定されています。2・3・4年は分冊、1・5・6年は合本されています。啓林館は、日常生活での経験や具体的な操作から生まれた疑問を「学びのめばえ」に示してめあてにつなげ、目的をもって活動できるように配慮されています。単元の学習内容である「本編」と習熟の程度等に応じて取り組める「学びのサポート」との2部構成になっています。プログラミング教育については、全学年で単元の学習に「P」のマークが付けられて示され、高学年では「算数ラボ」の中に設定されています。表紙の他、随所に「二次元コード」が付され、アクセスにより教科書を補完しています。2・3・4年は分冊、1・5・6年は一冊に合本されています。日本文教は、単元間の「Hello! Math」「つなげる算数」により学びを生かす数学的活動が設けられ、また、問題解決に当たり「学び合おう」の場面が設定されています。単元前に「次の学習のために」が用意され、既習内容を振り返る構成になっています。「どんな問題かな」「考えよう」「学び合おう」「ふり返ろう」という学習過程が示され、筋道立てて考え、協働して問題解決できるようになっています。プログラミング教育については、5年の図形単元の中に「プログラミング言語」を使った作図が紹介されています。1～5年が分冊、6年が一冊に合本されています。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございます。ただ今「算数」について説明をいただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

(中野住衣 委員) 各者、今説明をいただきましたように、数学的見方や考え方というものを可視化という言葉も使われておりましたが、工夫して示され、児童の学びに手厚く指導できるような形となっており、全ての教科書を拝見して大変勉強になりました。各者、学習の流れや説明の仕方が違うこともわかり興味深く見させていただきました。児童が躓きやすい単元を丁寧に見てみましたが、3年生で初めて出てくるわり算です。包含除と等分除の問題を見開きではじめに示し、その後の問題作り、答えの見つけ方、そういう流れをしている教科書とそうでない教科書があり違いも勉強になりました。高学年の単位量当たりの大きさ、割合、比の単元も注意して見ました。生活場面から持ってくる問題の出し方の違い、数学的考え方、見方を大切にしながらどのように児童の学習を導くか、それぞれに工夫がありました。また、練習問題も段階別に発展していく形式になっていて、個々の児童の学習に手厚くなっていると実感しました。それが私の意見です。最後に1点、質問です。各者、プログラミング学習が入っていますが、高学年に入っていたり、全ての学年に入っていたり様々ですが、プログラミング学習というのは、今後の算数教育において、どういう意味を持つことになるのか。よくわからない部分があるので、もし、部会で話題になったことがあれば、教えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(今泉達也 算数科専門部会長) 失礼します。部会の中では、プログラミング教育について、とりわけ学習指導要領に準じているかどうか、それについて、深くはないんですけども、簡単に触れてはみたところです。プログラミング教育については、ご案内の通り、プログラミング的思考を、高めると

ということが狙いでありますので、そのことについては学習指導要領上規定されているわけですが、とりわけ算数については、第5学年の中で、プログラミングを通して、正多角形の意味をもとに、正多角形を書く場面というのが制定されてございます。ですから少なくとも、それは全教科書設定されていますので、準じていますねと、いう程度の話し合いでございます。以上です。

(中野住衣 委員) 分かりました。ありがとうございました。

(大塚崇行 委員) 意見ということで、今の中野委員と同じようなことなんですが、導入部分で、各者、学び方についてということで書かれておまして、その部分で、会社によっては、細かすぎるというのは変かもしれませんが、それとシンプルに書かれているところと、ありまして、どちらかというところとシンプルに書いていただいた方が、分かりやすいなと思いました。意見です。

(細野宏道 教育長職務代理者) 説明ありがとうございました。各者、プログラミングというのが、全ての先生の説明の中にも入っておりました。このプログラミングとかですね、子供達が過程を一步、一步、進んでいくとかいうことで、そうやってきますと、自分でノートを作る、そのノートを見て、今日の学習を振り返るとかいうことが出てくるかと思うんですが、そのノートを作れるかどうか、もちろん授業ですので、先生がこういう記載をしてくださいますとうふうになると思うんですが、自分で考えてノートが作れるかという観点で、何かこういう教科書は良いなと、そういった話し合いをされたことはありますか。

(今泉達也 算数科専門部会長) ノートの取り方についてはいくつか話し合いで取り上げられましたが、いずれにしてもプログラミング以外のところでも、ノートの取り方についてどの教科書も例示が示されていて、それを元に子供達がひとりひとり取れるように、というふうな構成にはなっていました。以上です。

(細野宏道 教育長職務代理者) あるところの教科書はこの辺が優れているねとか、という議論にはなっていないということで、各者全て取り上げられていたんですけども、そういうことの議論がされたという理解でよろしいでしょうか。

(今泉達也 算数科専門部会長) 優劣をつけるような話し合いはしてございません。

(細野宏道 教育長職務代理者) 分かりました。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。それではありがとうございました。以上で「算数」の質疑を終了いたします。続いて「体育（保健）」の説明をお願いします。

(市河利之 保健専門部会長) 保健につきましては、5者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、図や表を読み取り、分かったことを記述できる欄が設定されており、各章の最後に「まとめる・生かす」の項目で知識の確実な習得を促しています。また、「深める・伝える」という項目で対話的な学習活動を取り入れ、思考を深める構成になっています。学びに向かう力、人間性等を涵養するために、児童の気づきを出発点とし、学習課題を打ち出すなど、学習活動が明確になっています。さらに、AEDの使用法や、他教科・インターネットとの関連が示さ

れ、今後の実生活へと学びを生かすために「もっと知りたい・調べたい」などの項目が設定されています。教科書サイズはA4判となっています。大日本図書は、学習内容に合わせたグラフや写真、イラスト、キャラクターの資料等により、児童が理解を深める工夫がされています。また、学習毎に自分の考えについて書く欄を設けることで、学習が進むとともに、学習の深まりを感じることができるような構成になっています。学びに向かう力、人間性等を涵養するために、「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「深めよう」という一連の流れで学習が構成されています。さらに、中学校の体育での学習を「はってん」と明記し、中学校への接続を図り、系統性のある指導ができるようになっています。教科書サイズはAB判となっています。文教社は、学習課題に順序性を持たせる「動機付けページ」を配置し、基礎的・基本的な内容を理解できるような構成になっています。また、「振り返ってみよう」「話し合ってみよう」の項目で、伝え合い、学び合いを中心に自己の生活を振り返ることができるように構成されています。学びに向かう力、人間性等を涵養するために、各章の最後に「私の〇〇宣言」というページを設け、これからの生活に生かそうとしていることを記述形式で書き込めるようになっています。さらに、インターネットの接続や「熱中症」「AED」「防災」など発展的な学習についても触れられています。教科書サイズは、A4判となっています。光文書院は、「学習のまとめ」を単元の最後に用意し、ストーリー形式のイラストや会話を配置することで、学習内容を理解できるような構成になっています。また、「生かそう・伝えよう」では他者に伝える活動を通して思考を深める構成になっています。学びに向かう力、人間性等を涵養するために、子供達の実生活に合わせた内容で、AEDやアスカモデル等、学びを広げるための資料が掲載され、児童が興味を持って学びに向かえるようになっています。さらに、二次元コードを配置し、関連動画を家庭などで見られるようにするなど時代のニーズにも対応をしています。教科書サイズはA4判となっています。学研教育みらいは、各単元の冒頭に身近な写真やイラスト付きの発問を掲載することで、児童が興味関心にそって、課題を選択しながら学習できるような構成になっています。また、資料を読み取ったり、事例について探求・分析したりする活動を通して、自分の考えを深める構成になっています。学びに向かう力、人間性等の涵養のために、「まとめる・深める」などの項目で、学んだことを活用したり、生活につなげたりするための記述ができるようになっています。さらに、中学校に接続する資料を掲載することで、生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるようになっています。教科書サイズは、A4判となっています。これで、報告を終わります。

（池野和己 教育長）ありがとうございました。ただいま「保健」について説明していただきました。ただいまの説明について、質疑・意見等がございましたらお願いします。

（中野住衣 委員）質問なのですが、東書だけがページ数が多く、つまり厚いんですね。薄い冊子のもの比べて2倍くらいの厚さがあります。当然、扱う内容について一つ一つページ数をとって資料等に書き込めるような内容も入っていました。1者がページ数が非常に多いということは話題になりましたか。

（市河利之 保健専門部会長）特に総数についての比較検討はしておりませんが、やはりデータ上は、東京書籍が総ページ数であったり、資料、付録のページ数であったり、また、表、グラフの数等について、数は多くなっておりますので、その分ボリュームは、多くなっているのかなと考えております。以上です。

（細野宏道 教育長職務代理者）説明ありがとうございました。体育、保健ということで、特徴上、体

を動かすということで、子供達がそれを見るのに、文字で説明するのと、イラストまたは写真での説明、いろんな説明が記載をされています。子供達からすると、パッとイラストがあったり、実際にこうなっているんだなというのが多いと、何か良いのかなというのが感じるのですが、その辺の議論というのはありましたか。

(市河利之 保健専門部会長) 今ご質問のあった観点での検討はしておりませんが、データ上、資料、付録の数が、この者はいくつぐらいとか、表やグラフはいくつぐらいであるというような、数の検討は致しました。それぞれが教科書の中では、適正に扱われておりますので、それぞれに優劣をつけるという観点では、検討はしておりません。

(細野宏道 教育長職務代理者) 分かりました。ありがとうございました。

(中野住衣 委員) 質問なんですけれども、今ご説明の中にも、各者AEDのことに触れているということがあったんですけれども、教科書の中に、1ページ大きくAEDの手順、使い方を示してあるところがあって、他は小さくAEDについて取り上げられていたんですけれども、実際に今の小学校のAEDの指導というのは、どういう形になっているんですか。教えていただければと思います。

(市河利之 保健専門部会長) 中野委員さんのご案内の通り、先ず教師のAEDの使用トレーニングというのは、もちろんやっているところです。実際に子供たちが体験できるように、教科書の方にも載っております、本校では、5年生で練習用のトレーニングキットで必ず1時間は、いわゆる実習をすると、というような授業を行っております。今、学校保健課さんの方でも、そういったキットを用意されておりますので、どの学校もそれを利用した授業を行っているかと理解しております。以上でございます。

(中野住衣 委員) 分かりました。ありがとうございました。

(内田みどり 委員) 保健科の授業の中でも、2次元コードが、配置されているところがあったと思うんですが、その中のご説明で、家庭や他の時間で、見られるようにということなんですけれども、小学生ですと、自分でスマホですとか、タブレットを持っていることは、ほとんど少ないと思うんですが。この場合、保護者への使用の説明ですとか、そういったことは検討されたことはございますでしょうか。

(市河利之 保健専門部会長) ご質問ありがとうございます。私たちも2次元コードの活用について、部会の方でも話が上がりました。会社によっては、いくつかの単元で出て来るとような使い方をさせるような会社もございますし、冒頭に一つだけ、そのマークという形で、提示をさせてそこからいろんなサイトへ飛んだり、動画を見せたりとか、教科書会社に飛んだりとか様々でございました。共通していることは各者にすべて入っております。今後小学校の方も無線LAN化をされていきますので、2次元コードを読み込めるものを使って、学校でもそれを利用できるようにしていく必要があると考えております。今の時点ではご家庭でというのが前提になっているかと思っておりますので、内田委員さんがおっしゃる通り保護者への啓発もしていく必要があると考えております。

(中野住衣 委員) 意見です。各者、自己の課題について調べて問題解決を図っていく、これは、生涯

にわたって生きて働く力を付けることになると学ばせていただきました。交通事故の防止、犯罪被害の防止など、とても重要な問題で、それについて丁寧に扱っている教科書が多くありました。そういう中で、依存症を取り上げた会社が1者ありまして、ネット依存ですとかゲーム依存ですとか、ギャンブル等を扱っていました。やはり、社会が変化していく中で、子供達を取り巻く環境も変わってきていますので、そういう新たな課題について取り上げていただくのはありがたいなと私は思いました。以上です。

(池野和己 教育長)他に、意見、質疑等はございませんか。ないようですので、「保健」の質疑を終了いたします。

(深澤孝忠 小学校教科用図書選定資料作成委員会委員長)以上で、小学校のすべての教科に係る調査検討事項の説明を終了いたします。

(池野和己 教育長)ありがとうございました。それではこれより教科書選定の投票を行います。これから委員の皆様投票用紙を配布いたします。投票用紙には、採択すべきと考える教科書の第1位及び第2位をお決めいただき、第1位に「◎」、第2位に「○」を、それぞれ表の右ワクに記入してください。なお、第1位を2点、第2位を1点として集計します。それでは、事務局は、投票用紙の配布等の準備をお願い致します。

～ 投票用紙配布 ～

(池野和己 教育長)投票箱の確認をお願いします。

～ 投票箱中身確認 ～

(池野和己 教育長)異常なしと認めます。それでは委員の皆様、記入が終わりましたら、順番はありませんので、確認をもう一度していただいて、投票箱の方にお進みいただき、投票をお済ませいただきたいと思います。

～ 投票完了 ～

(池野和己 教育長)投票が終了しましたので、事務局は開票及び集計をお願いします。

～ 集計 ～

(池野和己 教育長)それでは大変長くお待たせいたしました。集計が終わりましたので、「国語」から順に、それぞれ第1位、第2位を報告します。先ず「国語」、1位が「光村図書」12点、2位が「教育出版」5点、続いて「書写」、1位が「光村図書」11点、2位が「東京書籍」及び「学校図書」それぞれ3点でございます。続いて「社会科」を申し上げます。1位が「東京書籍」12点、2位が「教育出版」6点、続いて「社会科(地図)」1位が「帝国書院」12点、2位が「東京書籍」6点、続いて「算数」、1位が「東京書籍」12点、2位「啓林館」4点であります。続いて「理科」、1位が同点です。「東京書籍」及び「教育出版」、それぞれ9点であります。続いて「生活

科」、1位が「東京書籍」12点、2位が「学校図書」及び「教育出版」でそれぞれ3点であります。続きまして、「音楽」、1位が「教育芸術社」12点、2位が「教育出版」6点、「図画工作」、1位が「開隆堂」12点、2位が「日本文教出版」6点、続いて「家庭科」1位が「開隆堂」12点、2位が「東京書籍」6点であります。続きまして「体育科（保健）」、1位が「学研教育みらい」9点、2位が「東京書籍」8点であります。続いて「外国語」、1位が「学校図書」9点、2位が「東京書籍」7点、以上です。「道徳」、1位が「学研教育みらい」12点、2位が「光村図書」5点あります。以上によりまして、「理科」が同率であります。従いまして、この後、挙手によって意思を表示いただきたいと思います。目録順に、出版者名を申し上げますので、委員の皆様につきましては、どちらかの教科書に1度挙手をお願いしたいと思います。予め申し上げますが、目録順ですと、「東京書籍」、その後「教育出版」となりますので、「東京書籍」或いは「教育出版」、いずれかに挙手をお願いいたします。それでは先ず、「東京書籍」がよろしいと思う委員さんは、挙手をお願いいたします。

～ 教育委員3名挙手 ～

(池野和己 教育長) 「教育出版」が良いとする委員さんは挙手をお願いいたします。

～ 教育長、教育委員2名挙手 ～

(池野和己 教育長) 従いまして、また3対3になりましたので、この場合につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定によりまして、教育長による決定となりますので、私が賛成を申し上げました「教育出版」に決定をすることといたします。以上で、令和2年度使用小学校教科用図書の採択について協議を終了いたします。ここで、丁度時間が10分前ですので、10分間休憩を取らせていただきます。再開を10時丁度としたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。では、休憩といたします。

～ 休憩 ～

(池野和己 教育長) それでは協議を続行いたします。続いて、令和2年度使用中学校教科用図書の採択についての協議を行います。それでは中学校について協議の説明をお願いします。

(伊藤潔 学校教育部長) 中学校教科用図書の採択につきましては、文部科学省「中学校用教科書目録」の中から、教科用図書を選定し採択いただくことになっております。本日は、すでに配布させていただきました各資料から、資料作成委員会の研究結果を、ご報告申し上げます。

(池野和己 教育長) それでは、上尾市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する規則第5条第5項の規定により、森田中学校教科用図書選定資料作成委員会会長より、令和2年度使用中学校教科用図書の採択について、調査検討事項の説明をお願いします。

(森田直樹 中学校教科用図書選定資料作成委員会会長) それでは、ただ今から、中学校教科用図書の採択に係る選定資料についてご説明いたします。資料作成の過程でございますが、今回、採択する教科書は、令和2年度の1年間のみ使用であり、各出版者から現行の教科書が見本本として提出され、

新たなものはございませんでした。したがって、平成27年度に行った調査研究の結果を参考に、指導主事による専門部会において改めて調査研究し、その結果を資料作成委員会に報告していただきました。その報告をもとに、学校の調査研究結果、教科書展示会におけるアンケートなども参考にしながら作成したものが、選定資料でございます。それでは、国語より順に、指導課指導主事から調査検討事項の説明を申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。

(池野和己 教育長) それでは、上尾市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する規則第9条第2項の規定により、「国語」から調査検討事項の説明をお願いします。

(宮田直弥 指導課指導主事) 国語科(国語)につきましては、5者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、学習指導要領の目標を受け、各領域別に伝達、構成・展開などの系統の目標と内容を示しています。基礎的・基本的な知識技能の習得について、「てびき」に課題と内容の要点を記し、巻末に知識の参考となる内容を示しています。思考力・判断力・表現力の育成のために、「学びの扉」で整理・分類・分析等の思考の課題を取り上げています。主体的に学習に取り組む工夫として、脚注に漢字、漢字用例、語句の課題、「読書案内」が示されています。学校図書は、学習指導要領の目標を受け、「絆」「生命」等のテーマで各領域の単元を構成しています。基礎的・基本的な知識技能の習得について、「学びの窓」でワークシートの形式で課題を示し、巻末に文法をまとめて示しています。思考力・判断力・表現力の育成のために、話す・聞くではプレゼンテーション等の技法を取り上げています。主体的に学習に取り組む工夫として、脚注に漢字、語句の課題、「読書に広げるために」で書籍紹介が示されています。三省堂は、学習指導要領の目標を受け、領域別教材一覽で「つけたい力」、言語活動を示し、小説・報告・説明等の文種を示しています。基礎的・基本的な知識技能の習得について、「学びの道しるべ」で目標と課題を示しています。思考力・判断力・表現力の育成のために、話す・聞くでは、プレゼンテーション等の技法を取り上げ、巻末に多様な思考や表現の方法を示しています。主体的に学習に取り組む工夫として、脚注に熟語、用例の課題を示し、単元ごとに「私の本棚」で書籍紹介があります。教育出版は、学習指導要領の目標を受け、説明・小説等の文種を示してテーマ毎に各領域で単元を構成しています。基礎的・基本的な知識技能の習得について、「みちしるべ」で目標と評価、課題、要点を示し、巻末に文法の解説を掲載しています。思考力・判断力・表現力の育成のために、「学びの重点」で情報処理や思考の課題を取り上げています。主体的に学習に取り組む工夫として、脚注に、漢字、用語の課題、単元ごとに「読んでみよう」という読書案内が示されています。光村図書は、学習指導要領の目標を受け、説明・論説等の文種を示して複数の領域で単元を構成しています。基礎的・基本的な知識技能の習得について、目標、課題、要点、振り返りを示し、巻末に学習用語を一覧にして示しています。思考力・判断力・表現力の育成のために、話す・聞くの領域でプレゼンテーション等の技法を取り上げています。主体的に学習に取り組む工夫として、脚注に語句の課題、新出漢字、「広がる読書」で書籍紹介が示されています。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) 続いて「書写」の説明をお願いします。

(宮田直弥 指導課指導主事) 国語科(書写)につきましては、5者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、学習指導要領の目標を受け、系統的に内容を配置し、各学年の最終単元は実生活で活用する内容になっています。基礎的・基本的な知識技能の習得については、単元のはじめに目標、由来、学び方の要点等を文章で示しています。穂先の動きを朱墨の

濃淡で示し、「広げよう」で硬筆と関連を図っています。思考力・判断力・表現力の育成のために、「調べよう」で学習課題を示し、活動を通して課題を解決しながら習得する構成になっています。学校図書は、学習指導要領の目標を受け、各教材に学習のねらいが示され、学年毎に内容を系統的に繰り返し配列しています。基礎的・基本的な知識技能の習得の工夫として、半紙と同サイズの手本を掲載しています。点画の筆の動きを朱墨で示し、その横に要点や運筆を図示しています。また、毛筆の学習を活かした硬筆の課題を設定しています。思考力・判断力・表現力の育成のために、「考えよう」で要点に気づかせる課題を示しています。三省堂は、学習指導要領の目標を受け、楷書から行書へ段階的に配置し、課題を確かめながら表現する構成になっています。基礎的・基本的な知識技能の習得については、手本に書き順を示し、硬筆で記入して要点を練習する欄を設けています。運筆を書き手の目線から理解できるように立体的に示しています。思考力・判断力・表現力の育成のために、「考えよう・話し合おう」で字形の特徴などを考えながら書く課題を示しています。教育出版は、学習指導要領の目標を受け、楷書の復習から発展、行書の導入から発展と系統的、段階的に構成しています。基礎的・基本的な知識技能の習得については、半紙と同サイズの手本を掲載しています。また、単元の始めに学習のねらいを簡条書きで示しています。穂先の動きを朱墨の濃淡で示し、要点や運筆を示しています。試し書き、まとめ書きで繰り返し練習する欄を設けています。思考力・判断力・表現力の育成のために、「考えよう」で要点を意識して表現する課題を提示しています。光村図書出版は、学習指導要領の目標を受け、楷書・行書・実用的な活用を段階的に配列しています。基礎的・基本的な知識技能の習得については、見開き2ページで1作品を示し、目標、課題、運筆を示す朱墨、硬筆でのなぞり書きや書き込み欄を設けています。思考力・判断力・表現力の育成のために、情報を集めたり整理したりするときのマッピングやアンケート調査用紙等の思考に関する表現の仕方を複数掲載しています。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) ありがとうございました。続いて「社会」の説明をお願いします。

(松林剛志 指導課指導主事) 社会科(地理的分野)につきましては、4者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、各章の最後に、「表」「ウェビング」「イラストマップ」といった、多様な方法での学習のまとめがごございます。主な地形と、テーマに応じた基本的な用語や現象など、知識・技能の習得を図っています。「ためしてみよう」では、資料を活用して読み取る課題を設定しています。主体的に学習に取り組めるよう、「地理にアクセス」により、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされています。教育出版は、「領土」「環境」「防災」などの課題に対して、多くの資料を用いて多面的に考察する手立てがなされています。毎時間の学習において、「ステップ2」ではやや発展的な課題を設定し、表現力や思考力を高める内容となっています。主体的に学習に取り組む工夫として、紙面の構成に統一感があり、「中学生」「かえる」「ふくろう」といったキャラクターが登場し、要点について考えさせる内容構成となっています。帝国書院は、「防災」「共生」「環境」といった今日的課題を取り入れています。章末では、各ページの要点を、重要語句や文章で答えさせる形のまとめとなっています。「説明しよう」は、グラフを読み取りまとめさせる内容となっています。見開き1時間ごとに、導入資料から疑問が吹き出しの形で示されているため、課題意識を持って学習に臨めます。特設ページや、生徒の興味・関心を引き出すようなコラムがごございます。日本文教出版は、言語活用コーナーで、「読み取ろう」「考えよう」など、はっきりとした課題が設定されています。章末には、各章の重要用語や気候、テーマに沿った復習があります。「読み取ろう」では、地図や資料からまとめさせる発問が見られます。主体的に学習に取り組む工夫として、「確認」と「活用」により、授業のまとめやグループ学習での話し合い活動へ、展開がしやすい

くなっています。これで、地理的分野の報告を終わります。

社会科（歴史的分野）につきましては、8者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、単元導入で、各時代のあらましを俯瞰させ、見通しを持つことで、学習意欲を喚起させるようになっています。導入資料、学習課題、本文、確認と、統一して構成されています。毎時間の「確認」は、学習内容の説明や、原因、結果を自分の言葉で表現する、言語活動を伴う課題設定になっています。「歴史スキル・アップ」などのコーナーで、発展的かつ自主的に調べる課題が設定されています。教育出版は、巻頭の「歴史の中の言葉」で名言を紹介したり、人物や文化遺産などを分類させたりして、学習意欲を喚起しています。「ふりかえる」では、「ステップ1」「ステップ2」と分けて、まとめの課題を示しています。キャラクターの設問などで、思考力が深まるように工夫しています。章の最後で、穴埋め年表や学習を深める課題を掲載し、自ら考え取り組むことができるようになっています。清水書院は、多文化共生の重要性を学び、国際協調の精神を育てるために、郷土や国家の発展に尽力してきた人々について、記述されています。各時代とも、導入の問いかけに対応した学習のまとめを行う構成となっています。「もっと知りたい歴史」で、歴史にまつわるエピソードを紹介し、思考力等の育成をしています。章末では、年表による学習内容の整理と、自分の言葉で表現する学習活動が設けられています。帝国書院は、歴史の大きな流れを理解させるために、各時代の最初に、その時代の一場面のイラストを描いた、「タイムトラベル」があります。1時間が、導入資料、「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」で構成され、時代の特色をとらえる学習に配慮しています。「確認（説明）しよう」では、自分の言葉でまとめを行うようになっています。特集「歴史を探ろう」を活用して、学習内容を広げたり深めたりすることができます。日本文教出版は、「とらえよう！時代の転換」で時代比較をし、本文や資料で学習を深め、最後に時代を大観できるようにしています。系図の見方など、歴史学習に必要な知識・技能を解説するコーナーを設けています。単元のはじめに、「時代の転換のようす」を資料から考えるページを設けています。図版にマークを添えて、読み取る視点を与え、資料を主体的に読み取り、考察できるようになっています。自由社は、「人物クローズアップ」で、我が国の歴史に対する積極的な愛情を深め、国民としての自覚を育てようとしています。序章に「歴史のとらえ方」を設け、調査の技能を学ぶようになっています。章末の「〇〇とはどんな時代か」で、学んだことを再構成し、時代の特色を言葉で表現できるようになっています。「もっと知りたい」「人物クローズアップ」などで、学習内容を深め、主体的に学習を進めることができます。育鵬社は、「歴史の名場面」「歴史ビュー」などで、我が国の歴史に対する理解と愛情を深め、国民としての自覚を育てるようになっています。各章の冒頭に課題が示され、資料を読み取る技能を習得できるようになっています。「歴史人物Q&Aカードをつくろう」「歴史新聞をつくろう」の活動では、考えを自分の言葉で表すようになっています。「歴史の名場面」などの歴史読み物を通して、主体的に学ぶことができます。学び舎は、学習のまとめでは、4人班で話し合い活動を行うなどにより、言語活動の充実を力を入れています。知識・技能の習得のために、「歴史への案内」「歴史を体験する」「学習のまとめ」が設けられています。章末では、自分の言葉でまとめをするようになっています。各時代の導入では「学習課題」が示されており、時代の特色を考えながら、主体的に学習を進められるようにしています。これで、歴史的分野の報告を終わります。

社会科（公民的分野）につきましては、7者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、今日的な課題について、新聞資料などで興味をもたせ、参加型学習で言語活動ができるようになっています。1時間を、「導入資料」から「学習課題」「本文」「確認」の流れで構造化しています。「X市の市長に立候補しよう」「コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう」など、シミュレーション学習で思考力の育成を図っています。学習内容を広げたり、深めたりする「公民にアクセス」「ティーブレイク」を掲載しています。教育出版は、終章のレポート「未来へ

の私の約束」で、持続可能な未来をつくるために大切なことを考えさせています。「学習課題」に対応した「ふりかえる」ステップにより、学習内容の定着を図るようになっていきます。ディベート、ディスカッション、プレゼンテーションなどの活動を取り入れています。「公民の窓」では、身近で具体的な事例を取り上げて、興味・関心を高めるようになっていきます。清水書院は、終章の「持続可能な未来へ」で、学習のまとめとして、よりよい社会の形成に向けて、卒業論文を書く課題が設定されています。知識・技能の習得のために、「目標」を明確に表記しています。本文の説明と合わせ、風船マークの「調査」の設問で、調べたり、考えたりさせています。序章「私たちと現代社会」において、固有の伝統と文化を持つ国同士が尊重し合い、交流を深めることの大切さが示されています。帝国書院は、「クローズアップ」「羅針盤」で、国際社会の諸問題の解決に向けた努力や、相互協力の大切さを考えさせています。「トライアル公民」では、「まちづくり」「企業づくり」などを考えさせ、多面的・多角的に考察し、意見交換ができるようになっていきます。1時間が、「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」という流れで構成されています。東日本大震災で再確認された、「助け合い」「和」の精神を例示しています。日本文教出版は、個人情報や労働問題など、今日的な人権課題を取り上げ、「個人の尊重」「権利と義務」について理解を深めています。「情報スキルアップ」で情報収集、読みとり、伝え方、活用方法などの技能を高めるようになっていきます。「公民ズームイン」では、「東日本大震災」「持続可能な社会」などを考える場として設けています。各編冒頭に「ナビ」のコーナーを設け、何をどのように学習するかが説明されています。自由社は、人権や義務について、互いの権利を尊重し、義務を果たすことを学ぶようになっていきます。章末「学習のまとめと発展」で、重要語句を確認し、課題を選んで追求する学習を設けています。「もっと知りたい」では、憲法第9条や企業は誰のものかについて、多面的・多角的に考察するようになっていきます。見開きページごとに、「ここがポイント！」を設けることで、自主学習を進めやすくしています。育鵬社は、「権利や義務」について、今日的な事例を新聞やコラムで取り上げ、互いの権利を尊重し、義務を果たすことを学ぶようになっていきます。章末の「学習のまとめ」で、重要語句を確認するワークシートが設けられています。新聞の社説を両論併記し、ディベートを行わせ、多面的・多角的な考察の視点を養っています。郷土の史跡や景観を活用した街づくりの様子が掲載されています。これで、公民的分野の報告を終わります。

（池野和己 教育長） 続いて「社会科（地図）」について説明をお願いします。

（松林剛志 指導課指導主事） 社会科（地図）につきましては、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、東日本大震災などの「防災」「我が国の領域」「環境保全」など、今日的な課題について、対応した構成となっています。巻頭の「この地図の活用方法」で、基本的な地図の活用方法が説明されています。資料のポイントや考察の視点をキャラクターのふき出しで示し、資料を読み取る力を高め、考察を深められるようになっていきます。ご当地キャラクターなどを活用し、学習に取り組む意欲や態度が高まるよう工夫されています。帝国書院は、日本各地域の伝統や文化を扱い、我が国や郷土を愛する心を育めるよう構成されています。巻頭で地図帳の使い方について、オーストラリアを例に、中学1年生向けのシンプルな構成で、具体的に説明しています。「地図を見る目」で読み取る力や、「やってみよう」で言語活動が促されています。協働学習で活用できる資料が掲載され、気づきや学習の手がかりなども提示されています。はっきりとした色使いを採用しています。これで、地図の報告を終わります。

（池野和己 教育長） 続いて「数学」の説明をお願いします。

(岸千里 指導課指導主事) 数学につきましては、7者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、「数学を利用する活動」や、「説明し、伝え合う活動」を促し、「活動のねらい」が明確になるように配慮されています。思考力等の育成のために、『学び合い』のコーナーが、「右ページ」で始まり、「考え方の例」が生徒に見えないように構成され、「次のページ」に「多様な考え」が用意されています。問題解決のポイントに、「生徒の挿絵と吹き出し」が用いられている、という特徴がございます。大日本図書は、「数学を利用」したり、「考えを伝え」たりして、「課題を解決」できるように配慮されています。思考力等の育成のために、『研究しよう』『レポートを書こう』のページを掲載し、「発表の仕方や書く活動」が示され、「言語活動」を意識した内容になっています。「学習する内容の項目」が、「見開き2ページ」にまとめられ、さらに巻末には、「幅広い知識」を習得するための『マスフル』が設定されているという特徴がございます。学校図書は、「数学的活動の目的」が明示され、「活動のよさ」を味わうことができるように配慮されています。思考力等の育成のために、『ふかめよう』『課題学習・自由研究』を設定し、身に付けた「知識や考え方」を活用できるように構成されています。各単元の始めに『目標』があり、新しい学習内容の「方向性」が明示されている、「環境、福祉」などのコラムを扱い、「数学の有用性」に着目した題材が用意されているという特徴がございます。教育出版は、「数学的活動の具体例」が示され、「説明」や「話し合い」の設定がされています。思考力等の育成のために、『数学で大切にしたい考え方』のページに、「数学的な考え方」を例示し、また、「多様に考えることができる課題」や「伝え合う場面」などが設定されています。学習課題が「挿絵と太字」で示され、例題に「簡潔な表題」が記されている、『数学ミニ辞典』『数学メモ』等で「意欲を高める題材」が扱われているという、特徴がございます。啓林館は、「事実や事柄」、「方法や理由」を説明したり、「発展、活用」したりする配慮がされています。思考力等の育成のために、『自分のことばで伝えよう』には、「理由などを伝え合う活動」が、『自分の考えをまとめよう』には、書く活動が、それぞれ設定され、『千思万考』が用意されています。本冊の学習内容を生かして学ぶ、別冊『Math Navi ブック』が用意されている、という特徴がございます。数研出版は、「討論や作業」を通して「事柄」を見つけたり、「問題」を解決したりできるように配慮されています。思考力等の育成のために、数学的活動に関する『問』に、『見つけよう』『伝えよう』『活用しよう』のマークが付けられています。『章の扉』が「見開き2ページ」で構成され、身の回りの事象を写した「写真や挿絵」が用いられている他、「環境や福祉」などに関わる、「数学の有用性」に着目した題材が取り上げられているという特徴がございます。日本文教は、「性質」を見つける、「数学」を利用する、「方法や理由」を説明するなどの「活動」が設定されています。思考力等の育成のために、『やってみよう』に、「既習事項を活用」して考えたり、「調べ」たりする課題が、また、『話し合おう』に、「協同で解決」する課題が示されています。『章の扉』が「見開き2ページ」で、「生徒の挿絵」が用いられ、「対話」する形式になっている、という特徴がございます。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) 続いて「理科」の説明をお願いします。

(岸千里 指導課指導主事) 理科につきましては、5者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。東京書籍は、単元の最初に、身近な事象の写真とともに既習内容とのつながりを示し、学習意欲を喚起するようになっております。観察・実験のページには、目的・方法・結果の見方・考察のポイントを示し、科学的に考える場面では、「考えよう」「調べよう」「推測しよう」等の見出しを色分けして示しております。読み物「科学でGo」等で、日常生活や社会・環境など実

生活との関連を意識させるようになっております。大日本図書は、単元の最初に、これまでに学習したことと、これから学習することを示し、学習課題が明確にしてあります。観察・実験では、目的の確認、観察・実験方法の理解、結果のまとめ、考察、規則性の確認という流れで、思考力・表現力が身につくようになっていきます。読み物資料「トピック」や「くらしの中の理科」を掲載し、生活の中で理科が身近に感じられるようになっており、環境に関する内容には「環境マーク」がつけられています。学校図書は、単元の最初に、身近な事象の写真を紹介し、生徒の学習意欲を喚起するようになっております。「思い出してみよう」で既習事項を示し、「学習のまとめ」や「単元末問題」で基本的な用語の復習をするようになっております。観察・実験前には「基本操作」や「レポートのかき方」を示し、「考えてみよう」で、実験の結果を元に考察するようになっております。「科学の窓」や「科学を仕事に活かす」で日常生活との関連を学ぶようになっております。教育出版は、単元の最初に、身近な事象を紹介するとともに、「思い出そう」で既習事項を示し、学習意欲を喚起し、単元末の「要点と重要用語の整理」で基礎的な知識を復習するようになっております。観察・実験においては、「基礎技能」で基本的な技能を習得し、観察・実験の結果を表に記入して結果を具体的に確認した上で、考察するようになっております。イラストや読み物を活用して科学と日常生活との関連等を学ぶようになっていきます。啓林館は、単元の最初に、学習内容に関連する事象を活用して学習意欲を喚起しています。観察・実験に際し、ねらいや方法、結果の処理、考察の流れをイラストや写真等で示し、基礎的・基本的な知識・技能が習得できるようになっております。読み物「ひろがる世界」等で実生活との関連を意識させるようになっていきます。別冊「マイノート」は、基礎的・基本的な学習内容を確認する部分と応用を含む問題集の部分からできております。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) 続いて「音楽」の説明をお願いします。

(岸千里 指導課指導主事) 音楽科(一般)につきましては、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。教育出版は、「思考力・判断力・表現力等の育成」のために、思考・判断につながる質問や助言が示され、〔共通事項〕を中心に知覚・感受したことを書き込める部分があり、伝えたり、話し合ったりできるようになっていきます。また、音楽を形づくっている要素を感じ取って聴き、言葉で説明する構成になっています。「主体的に学習に取り組む工夫」では、表現や言語活動、創作活動が段階を追って設定されています。教育芸術社は、「思考力・判断力・表現力等の育成」のために、思考・判断を行うための指針となる問いかけや場面が示され、表現を工夫したり、思考した内容を記述したりする構成になっています。また、〔共通事項〕を支えに知覚・感受し、自分の言葉で説明したり、根拠をもって批評したりできるようになっていきます。「主体的に学習に取り組む工夫」では、学習活動の手順や学習に必要な情報が示されており、創作活動が段階を追って設定されています。これで、音楽家(一般)の報告を終わります。音楽科(器楽合奏)につきましても、2者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。教育出版は、「思考力・判断力・表現力等の育成」のために、表現を工夫して演奏するための具体的な問いかけやアドバイスが示され、思考・判断・表現ができるようになっていきます。「主体的に学習に取り組む工夫」では、楽器の奏法が分かる写真が示されるとともに、楽器のパートを選んだり、創作活動が手順を追って示されていたり、主体的に学習できる構成になっています。また、使用している楽器の数は、リコーダー、ギターと5種類の和楽器となっています。教育芸術社は、「思考力・判断力・表現力等の育成」のために、思考・判断を行うための問いかけ等が示されており、曲の構成をパートの役割と〔共通事項〕とを関連させ、思考・判断させる場面があります。「主体的に学習に取り組む工夫」では、学習に必要な情報が示されており、演奏の手順が分かる写真や説明があり、創作活動が手順を追って示さ

れています。また、使われている楽器は、リコーダー、ギターと5種類の和楽器と12種類の打楽器を取り上げています。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) 続いて「美術」の説明をお願いします。

(松林剛志 指導課指導主事) 美術科につきましては、3者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。開隆堂出版は、表現と鑑賞のページを明確に区別せず、発達段階に応じた、表現と鑑賞を関連させた幅広い活動を通して、創造活動の喜びや、美術を愛好する心情を育む構成となっています。各題材の中で、基礎的な知識や技能にかかる箇所を共通の枠で囲み、目に付きやすいようにしたり、巻末に、用具の扱い方や、色彩についての知識をまとめた資料を掲載したりすることで、基礎的な知識や技能が習得できるようになっています。思考力・判断力・表現力の育成が図られるよう、発想や構想を練る上でヒントとなる、「作者の言葉」や「コラム」を多く掲載しています。自己評価の観点を、4観点別に、「ふりかえり」として各題材の末尾に示し、更には、関連する技法や鑑賞のページがすぐ分かるよう「指さしマーク」で示すことで、主体的に表現活動や鑑賞活動に取り組めるようになっています。鑑賞ページの「原寸ギャラリー」は、本物に近い形で鑑賞できるようになっています。光村図書は、発達段階に応じた、生徒の体験や生活に根ざした題材、暮らしや社会と関わりのある題材を多く取り上げ、創造活動の喜びや、美術を愛好する心情を育む構成となっています。基礎的な知識・技能を習得できるよう、巻末に「学習を支える資料」として、技法や用具の扱い方及び鑑賞の資料を多くのページを使って掲載しています。また、題材の中の「矢印マーク」で、巻末の資料にリンク出来るようになっています。思考力・判断力・表現力の育成が図られるよう、全ての題材でQマークの「問いかけ」を、多くの題材で電球マークの「みんなの工夫」や、写真や具体例を示しています。各題材の目標を、題材名の横に4観点で示すとともに、身につけたい力や学習のねらいを、10項目のマークで分かりやすく分類して示すことで、主体的に表現活動や鑑賞活動に取り組めるようになっています。鑑賞ページの「原寸大で鑑賞しよう」は、本物に近い形で鑑賞出来るようになっています。日本文教出版は、発達段階に応じた、教科書毎のテーマを設定し、1年生では基礎的能力を、2・3年生でそれを伸張させる活動を通して、創造活動の喜びや美術を愛好する心情を育む構成となっています。基礎的な知識・技能を習得できるよう、題材の中に制作過程の写真や図版を多く載せ、また、参照ページで、巻末の、技法や用具の扱い方、色彩等についての資料を掲載したページにリンク出来るようになっています。思考力・判断力・表現力の育成が図られるよう、発想や表現のヒントとなる、「作者の言葉」や作品の解説、アイディアスケッチを多く掲載しています。各題材の目標を、「学びのねらい」として題材名の横に、4観点のマークとともに示し、更に「POINT」マークで、学習内容のポイントを明確に示すことで、主体的に表現活動や鑑賞活動に取り組めるようになっています。浮世絵の鑑賞ページでは、原寸大で和紙を使用し、本物に近い形で鑑賞出来るようになっています。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) 続いて「保健体育」の説明をお願いします。

(宮田直弥 指導課指導主事) 保健体育科につきましては、4者が発行しております。これらを研究

しました結果を報告いたします。東京書籍は、小・中・高との関連を持たせながら、学びの道筋がわかる構成となっています。学習内容が実生活に生かせるように「考えて見よう」や習得した知識を活用する「活用問題」を設けるなど工夫があります。ディスカッション・ブレインストーミング等生徒が主体的に学べるようになっており、B5拡大版見開き2ページで1時間の構成となっており、見やすくキーワードやポイント等の表記が分かりやすい内容となっています。大日本図書は、毎時の学習過程を明確にすることで学習の道筋が分かり、重点が「学習の要点」としてまとめられており、分かりやすい内容となっています。実生活との関連を示し、知識の活用や応用を促し実践力を育成できるようになっています。理解を深めるため「ミニ知識」や関連する内容を「リンク」として示し、調べ学習がしやすい内容としています。B5拡大版でワイドな見開きでキーワードやイラスト等の表記が工夫されています。大修館書店は、ディスカッションや課題学習・実習等を重視しています。章の最初にクエスチョンを設け課題解決に繋がるキーワードやまとめ等一連の流れの中で学習を深められる展開となっています。クエスチョンは本文を学習することで解決できる構成です。「発展」では課題解決に向けてチャレンジしたりトライしたりする項目が設けられています。コラムやTOPIC・Q&A・資料室等がバランス良く記載され見やすいものとなっています。学研教育みらいは、ウォームアップで既習事項を確認してから、本文・エクササイズ・活用の流れで繰り返し学習できる内容となっています。既習内容の定着・活用が図れるよう実験・実習・作業課題が多く設けられています。実生活への活用欄で実践力を育てられるようになっています。発展的な学習に取り組めるようにコラム・サプリー・リンクで自ら学べるようになっています。巻末には野外活動やオリンピックに関する資料が豊富に掲載されています。これで、報告を終わります。

(池野和己 教育長) 続いて「技術・家庭科」の説明をお願いします。

(岡野年良 指導課指導主事) 技術・家庭科(技術分野)につきましては、3者が発行しております。これらを研究し、各出版者ごとに大きく3点にまとめて報告致します。まず始めに東京書籍です。1点目は、全編「学ぶこと」を明示し、学習のまとめりに「目標」「まとめよう」を配置するなど、習得状況の確認をしながら実践的・体験的な学習活動を進める構成となっております。また、大きな特色は、実習に必要な加工法や作業工程が「基礎技能ページ」にまとめて掲載されていることです。2点目です。「問題の発見」から解決に至るまでの学習の進め方やポイントが、実習の中で繰り返し説明され、生徒が見通しをもって、技術・家庭科の目標に迫る手立てとしての問題解決的な学習が進められるようになっております。3点目です。学習を深めるための「技術のとびら」や「リンク」が設けられているなど、多くの種類のマークを使用し各分野ごとに統一され、学習を深めることができるよう構成されております。次に、教育図書です。1点目は、学習のまとめりに「学習の捉え方」「まとめ」「章末問題」を配置し学習を繋ぎ合わせながら学ぶ構成となっております。また、「基礎技能」、「コツ」マークを多く用いて基礎的な技能を習得しやすくしております。2点目です。学習活動に際し「やってみよう」や「考えよう」で話し合ったり考えたりする場面を設定し、技術・家庭科の目標に迫る手立てとしての問題を解決する学習が展開できるようになっております。3点目です。「発展」のマークにより生徒の興味・関心に応じた学習が進められるように工夫されております。多くのイラストや写真、図などが掲載されており、視覚を通して理解を深める構成となっているところが大きな特色となっています。また、内容ごとに、社会とのつながりに即した資料や最先端技術を多く掲載しております。次に、開隆堂出版です。1点目は、単元ごとに「学習の目標」「学習の振り返り」を設け、学習の目標を明確にし、学習したことを振り返りながら学ぶように構成されております。また、実習の流れや手順なども写真やイラストを用いて分かりやすく掲載しております。2点目

です。技術・家庭科の目標に迫る手立てとして、生徒が主体的に問題を解決する学習ができるよう「考えてみよう」「調べてみよう」を設け見通しを持って取り組めるように構成されております。3点目です。学習効果を高めるため「探究」「発展」「参考」「リンク」のマーク等により繰り返し学習を行ったり既習事項にリンクを張ったりすることで、学習内容を広げたり、深めたり、厚みを持たせたりすることができる構成となっております。また、技術にかかわる倫理観について多数取り上げまとめていることも特色でございます。これで、技術分野の報告を終わります。

続きまして、技術・家庭科（家庭分野）につきまして報告致します。技術分野同様に、3者が発行しており、各出版社ごとに大きく3点にまとめて報告致します。まず始めに東京書籍です。1点目は、基礎的・基本的な知識・技術の習得を図るために、「基礎技能ページ」としてまとめ、必要な時に技能の確認ができるよう検索性を高めた構成となっていることが大きな特色です。また、ワークシートやレポート例を多数示し、言語活動を取り入れた活動例や実習例が充実しております。2点目です。課題意識を持って学習に取り組むよう、単元ごとに「始めの活動」（考えてみよう・やってみよう）を設け、本時の学習の目標を示し、学習の終わりに「まとめの活動」を設けております。3点目です。問題解決的な学習が進められるように、関連する事項がある場合は「リンク」「他教科」マークを付け、教科横断的な学習ができるようになっております。内容の配列はB（食生活）、C（衣・住生活）、A（家族）、D（消費・環境）で構成されていることも特色としてあげられます。次に、教育図書です。1点目は、基礎的・基本的な知識・技術の習得を図るために、「キーワードチェック」、「クエッション」を活用し、自己の課題を発見させ、興味・関心を持って理解度を確かめる構成となっております。また、キャラクターのつぶやきが生徒の気付きを促し、自ら考えたり調べたりするきっかけとなっていることが大きな特色としてあげられます。2点目でございます。単元の導入において、「自立度チェック」や「クイズ」を活用させ、学習への関心・意欲を高めさせる工夫をしております。3点目です。写真やグラフ、図などの視覚資料を多く取り入れ、説明との双方から理解度を高めるように構成されております。導入から基礎的・基本的な学習、応用・発展的な学習へと系統的に掲載されていることも特色としてあげられます。内容の配列はA（家族）、B（食生活）、C（衣・住生活）、D（消費・環境）となっております。次に、開隆堂出版です。1点目は、基礎的・基本的な知識・技術の習得を図るために、「調べてみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」で問題提起をし、主体的に学べる構成となっております。2点目です。単元ごとに「学習の目標」「振り返り」を設け、学習内容を明確に捉え、生徒の生活場面に即した身近な課題によって意欲を持って取り組めるように構成されております。また、実習・制作題材を豊富に取り上げ、地域や家庭、生徒の興味・関心に応じて選べるように、平易なものから難度の高いものまで、多種多様な例を掲載しているところが大きな特色でございます。3点目です。脚注に「豆知識」を記載し、爪見出しに写真やマークを多用するなど理解を深める工夫を随所に行っております。内容の配列はA（家族）、B（食生活）、C（衣・住生活）、D（消費・環境）で構成されております。以上で、技術・家庭科の報告を終わりにいたします。

（池野和己 教育長）続いて「外国語」の説明をお願いします。

（岡野年良 指導課指導主事）外国語科（英語）につきましては、6者が発行しております。これらを研究しました結果を報告いたします。先ず初めに東京書籍です。言語材料の定着をより確かなものとする活動として、各Unitの最後に学び方コーナーやActivityが設定されています。また、表現力の育成の観点として、Daily Sceneが設定されており、日常生活で遭遇するであろう場面での英語表現を学習するようになっております。巻末のBonus Word Boxでは、扱っている単語が豊富で、日本や

自分達の生活について表現する際に役立てやすくなっています。また、Activity や Presentation などの自己表現活動をとおして、英語を使って情報を発信する機会が多く設定されています。主体的な学習を支える興味関心を喚起する手段として、1年生用には一言メモ、2・3年生用にはコラムというコーナーがあり、本文に関連した知識が得られる様になっています。次に開隆堂出版です。巻末に4技能別に英語でできるようになったかを年4回繰り返して確認できる Can Do リストがついており、生徒は自分自身で学習の上達を確認でき、意欲の向上を図るのに有効です。表現力向上の教材として、例えば My Project では学習した知識をもとにスピーチやディベートを行う機会が設定され、思考力や表現力を高めるための活動が設定されています。復習のための読み物教材や応用のための読み物教材として Extensive Reading があり、分量も多く、じっくりと英語を読ませることができます。特徴的な点として、1・2年生の教科書の目次には小学校外国語活動で既習となっている言語材料が一目で分かるよう、色を変えて示されています。次に学校図書です。各 Chapter で学習の見通しを立て、実際に学習し、Review や Chapter Project で成果を確認し、今後の学習につなげられるよう、主体的な学習に結びつけやすい構成になっています。中1ギャップ軽減に向け、外国語活動の学習で慣れ親しんできた、I like ～. Do you like ～? 等、一般動詞が用いられる文中中学校の英語の学習を始める点が他の教科書と大きく異なる点です。思考力・表現力の育成の観点では、「読んで書く活動」や「書いて話す活動」など、総合的な技能習得を目指す内容も設定されており、考えたり感じたりしたことを英語で表現する課題も扱われています。Listen & Repeat には単語の強勢や連結などの表示があり、イントネーションやリズム等を指導できるようになっています。次に三省堂です。本文の題材で扱う内容が多岐に渡り、生徒の知的好奇心を刺激するものが多く扱われています。読み物教材が充実し、じっくりと英語を読む機会が多く設定されています。GET という習得を目指すページと USE という活用力の向上を目指すページに分かれており、目的を意識した学習ができるようになっているため、基礎的・基本的な内容の習得とともに、英語での表現力の向上にも繋がる構成になっています。また、Sounds というコーナーでは、発音とつづりの関係を学ばせたり、英語らしい音に慣れさせるための指導を行える場面が設定されており、音声表現の基礎を扱えるようになっています。次に教育出版です。全学年、Hop Step Jump の3段階でプログラムが進み、Hop では聞く・話す・書く活動、Step では読む活動、Jump では既習言語材料を活用する活動となっているため、基礎的な内容を学習した上で汎用性・一般性の高い活動へと学習を進めることができる構成になっています。各単元では目標および言語の使用場面が示されており、言語の使用場面・言語の働きとともに分かりやすく提示されています。各ページには本文の内容に興味を持てるよう、Culture Notes がヒントとして与えられています。次に光村図書です。それぞれのページに学習のねらいが具体的に明示され、英語で何ができるようになるのかをはっきりと掴んだ上で学習することができます。Go For It では、表現力の向上を図る指導が展開できるようになっています。また、CLIL という他の教科の学習内容を英語で学ぶ手法が取り入れられており、扱っている内容は、1年生で家庭科、2年生で地理・歴史、3年生では保健体育、公民・理科となっています。本文では、学習している生徒の成長に合わせ、登場人物が様々な場面で様々な経験をしながら中1から中3へと生徒とともに成長していく構成になっており、登場人物や内容に親しみを感じながら学習が進められる様になっています。以上で、報告を終わります。

(森田直樹 中学校教科用図書選定資料作成委員会会長) 以上で、調査検討事項の説明を終了いたします。

(池野和己 教育長) ありがとうございました。それでは、ただ今、中学校各教科の調査検討事項につ

いて、説明いただきました。全体を通して質疑・意見等ございましたらお願いします。よろしくお願いいたします。

(内田みどり 委員) 社会科ですとか、それから音楽ですとか、音楽でも2種類の教科書がありましたり、社会科でも3種類の教科書があると思うんですけれども、やはりこの教科書というのは同じ会社のもを使用するというのが、一般的なんでしょうか、それともそれは別に關係なく、他の会社を選んでも良いということなののでしょうか。

(松林剛志 指導課指導主事) 各者ともそれぞれ研究されて作成されているために、それぞれの教科書で教えやすいように工夫されて作成されております。そのためどのような形であっても、同じように、指導ができるようなつくりになっております。

(岸千里 指導課指導主事) 音楽についても同様でございます。

(内田みどり 委員) ありがとうございます。

(細野宏道 教育長職務代理者) 数学についてですけれども、例えば習熟度別授業がなされていると思いますけれども、それらを勘案された教科書ということで議論されたことがありますか。

(岸千里 指導課指導主事) 専門部会では、まだそこまでの議論はされておられません。

(池野和己 教育長) 他に、質疑等はございませんか。それでは他には無いようですので、これで質疑・意見を終了いたします。

(池野和己 教育長) それではこれより、中学校の教科書選定の投票を行います。投票の方法は小学校と同様に行いますので、よろしくお願いいたします。それでは、投票の準備を事務局は、お願いします。

～ 投票用紙配布 ～

(池野和己 教育長) 投票箱の確認をお願いします。

～ 投票箱中身確認 ～

(池野和己 教育長) 異常なしと認めます。それでは投票用紙に採択すべきと思われる教科用図書の第1位、第2位、それぞれ◎、○を小学校の時と同じように記入をお願いいたします。記入が終了いたしましたら、終了した委員の方から、投票箱の方にお進みいただき、投票をお願いいたします。

～ 投票完了 ～

(池野和己 教育長) 投票が終了しましたので、事務局は開票及び集計をお願いします。

～ 集計 ～

(池野和己 教育長) 集計が終わりましたので、「国語」から順番にご報告を申し上げます。令和2年度使用中学校教科用図書得点結果でございます。「国語科(国語)」、1位「光村図書」12点、2位「教育出版」6点。「国語科(書写)」、1位「光村図書」12点、2位「教育出版」5点。続いて「社会科(地理)」、1位「東京書籍」12点、2位「教育出版」4点。続いて「社会科(歴史)」、1位「東京書籍」12点、2位「教育出版」5点。続いて「社会科(公民)」、1位「東京書籍」12点、2位「教育出版」5点。続いて「社会科(地図)」、1位「帝国書院」12点、2位「東京書籍」6点。続いて「数学」、1位「東京書籍」12点、2位「啓林館」6点でございます。続いて「理科」、1位「教育出版」12点、2位「東京書籍」6点でございます。「音楽(一般)」、1位「教育芸術社」12点、2位「教育出版」6点。「音楽家(器楽合奏)」ですが、1位「教育芸術社」12点、2位「教育出版」6点。「美術」、1位「開隆堂」12点、2位「日本文教出版」5点。続いて「保健体育」、1位「大修館書店」12点、2位「学研みらい」3点、同じく「東京書籍」3点でございます。続いて「技術家庭科(技術分野)」、1位「開隆堂」12点、2位「東京書籍」6点です。続いて「技術家庭科(家庭分野)」、1位「開隆堂」12点、2位「東京書籍」6点です。最後になりますが「外国語(英語)」、1位「開隆堂」12点、2位「東京書籍」3点、同じく「学校図書」も3点で、同点であります。以上で、令和2年度使用中学校教科用図書の得点結果の報告を申し上げます。それではこの後、議案の審議の準備をする関係がございますので、ここで暫時休憩を取らせていただきます。時間の方は15分、11時45分に再開をさせていただきます。

～ 休憩 ～

日程第4 議案の審議

(池野和己 教育長) それでは大変長らくお待たせいたしました。それでは続いて「日程第4 議案の審議」に入ります。皆様のご意見を集約いたしました議案第37号、並びに議案38号が提出されました。最初に「議案第37号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について」説明をお願いします。

(伊藤潔 学校教育部長) 議案第37号につきましては、太田副参事兼指導課長が説明申し上げます。

○議案第37号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について

(太田光登 指導課長) 「議案第37号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について」説明致します。令和2年度から上尾市立小学校において使用する教科用図書について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項の規定により採択をしたいので、この案を提出致します。「国語」、「光村図書出版」。「書写」、「光村図書出版」。「社会」、「東京書籍」。「地図」、「帝国書院」。「算数」、「東京書籍」。「理科」、「教育出版」。「生活」、「東京書籍」。「音楽」、「教育芸術社」。「図画工作」、「開隆堂出版」。「家庭」、「開隆堂出版」。「保健」、「学研教育みらい」。「外国語」、「学校図書」。「道徳」、「学研教育みらい」。以上でございます。よろしくお願いいたします。

(池野和己 教育長) ただ今、議案第37号について、説明をいただきました。質疑、意見等ございましたら、お願いします。

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。

～委員全員から「はい」の声～

(池野和己 教育長) ないようですので、これより採決に移ります。「議案第37号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について」原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

～委員全員から「異議なし」の声～

(池野和己 教育長) 異議ないものと認め、原案のとおり可決いたしました。なお、この採択結果を埼玉県教育委員会へ報告いたします。

(池野和己 教育長) 続きまして「議案第38号 令和2年度使用中学校教科用図書の採択について」説明をお願いいたします。

(伊藤潔 学校教育部長) 議案第38号につきましては、太田副参事兼指導課長が説明申し上げます。

○議案第38号 令和2年度使用中学校教科用図書の採択について

(太田光登 指導課長) 「議案第38号 令和2年度使用中学校教科用図書の採択について」説明致します。令和2年度から上尾市立中学校において使用する教科用図書について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項の規定により採択をしたいので、この案を提出致します。「国語」、「光村図書出版」。「書写」、「光村図書出版」。「地理」、「東京書籍」。「歴史」、「東京書籍」。「公民」、「東京書籍」。「地図」、「帝国書院」。「数学」、「東京書籍」。「理科」、「教育出版」。「音楽」、「教育芸術社」。「器楽合奏」、「教育芸術社」。「美術」、「開隆堂出版」。「保健体育」、「大修館書店」。「技術」、「開隆堂出版」。「家庭」、「開隆堂出版」。「外国語」、「開隆堂出版」。以上でございます。よろしく願いいたします。

(池野和己 教育長) ただ今、議案第38号について、説明をいただきました。質疑、意見等ございましたら、お願いします。

(池野和己 教育長) よろしいでしょうか。

～委員全員から「はい」の声～

(池野和己 教育長) ないようですので、これより採決に移ります。「議案第38号 令和2年度使用中学校教科用図書の採択について」原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

～委員全員から「異議なし」の声～

(池野和己 教育長) 異議ないものと認め、原案のとおり可決いたしました。なお、この採択結果を埼玉県教育委員会へ報告いたします。

日程第5 閉会の宣告

(池野和己 教育長) 以上で予定されておりました全ての日程は終了いたしました。これもちまして、令和元年上尾市教育委員会第1回臨時会を閉会いたします。長時間に渡りましてお疲れ様でした。

令和元年9月25日 署名委員 内田 みどり

※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。